

## Clavinova®

CVP-55  
取扱説明書  
(応用編)

もくじ	ページ
・各部の名称とはたらき	1
・クラビノーバの特長	9
1. 音色と効果について	11
・音色を選ぶ	11
・打楽器(キーボード・パーカッション)について	12
・効果(リバーブ)をかける	13
・リバーブの深さを設定する	13
・2つの音色を混ぜる(デュアル機能)	14
・音量のバランスについて	14
・2つの音色を選んで弾く(スプリット機能)	15
・スプリットポジションを設定する	15
・音色を指定する	15
・音量のバランスについて	16
・ダンパー効果の機能範囲について	16
・音程を変える(トランスポーズ)	17
2. リズムを使って演奏する	18
・リズムスタイルを選ぶ	18
・速さ(テンポ)を調節する	18
・リズムのスタートの種類について	19
・フィルインを入れる	20
・リズムのストップの種類について	20
・自動伴奏(ピアノABC)で楽しもう	21
・自動伴奏(ピアノABC)モードにする	21
・リズムスタイルを選ぶ	21
・リズムの速さを指定する	21
・音色を指定する	22
・音量(ボリューム)について	22
・演奏をスタートする/ストップする	23
・フルキーボードABCで演奏	24
・楽譜の読み方	25
・転回テクニックで楽々演奏	26
・楽譜	27
・ソロスタイルで楽しもう	29
・ソロスタイルプレイモードにする	29
・スタイルを選ぶ	29
・スタイルを変更する	29
・演奏をスタートする/ストップする	30
3. ディスクオーケストラについて	31
・自動演奏させる	31
・ディスクオーケストラに合わせて練習(マイナスイオン機能)	33
・苦手なフレーズを繰り返し練習(フレーズリピート機能)	34
・リピート練習する(A-Bリピート機能)	35
・録音用ディスクへのコピー(マイレパートリーづくり)	36
4. 演奏を録音/再生する(パフォーマンスメモリー)	37
・フロッピーディスクについて	37
・録音する前に	38
・フォーマット(初期化)する	38
・演奏を録音する①	39
・1トラックに録音する	39
・2トラックに録音する	40
・3~10トラックに録音する	40
・演奏を再生させる	41
・記録内容について	42
・多重録音について	42
・ピアノABC録音をする	43
・演奏を録音する②(コードシーケンス)	44
・コードシーケンスについて	44
・コードを録音する	44
・ディスクの編集	46
・ディスクコピー①(同じディスク内でのコピー)	46
・ディスクコピー②(別のディスクへのコピー)	47
・内容を消去する(デリート)	48
5. その他の機能	49
・他の楽器と音程を合わせる(ピッチコントロール)	49
・タッチの感度を変える	50
・他の機器と接続する	51
6. MIDI機能でステップアップ	52
・MIDIとは?	52
・CVP-55のMIDI端子	52
・MIDIでできること	52
・MIDI関係の設定・機能	54
・MIDIインプリメンテーションチャート	60
7. 資料	61
・CVP-55の組み立て方	61
・オプション(別売品)のご紹介	62
・おかしいな?と思ったら	63
・仕様	64
・エラーメッセージ一覧表	65
・発音数一覧表	65
・アフターサービスと保証	66

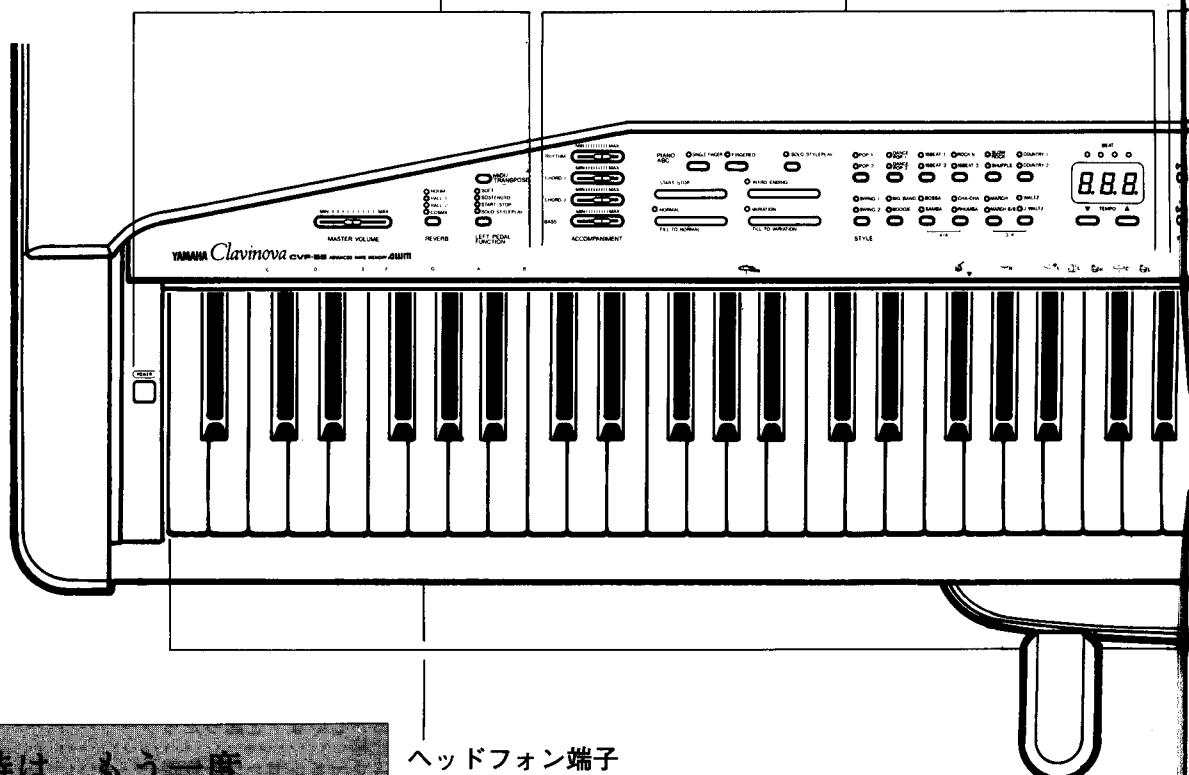
# ●各部の名称とはたらき

## A. 基本操作部

- ①パワー(電源)スイッチ(→基本編3ページ)
- ②マスターボリューム(音量調節)(→基本編3ページ)
- ③リバーブ(残響)ボタン(→13ページ)
- ④レフトペダルファンクションボタン(→基本編9ページ)
- ⑤MIDI/トランスポーズ(移調)ボタン(→17、54～59ページ)

## B. リズムスタイル部

- ⑥リズムボリューム(→22、32ページ)
- ⑦コード1,2ボリューム(→22、32ページ)
- ⑧ベースボリューム(→22、32ページ)
- ⑨ピアノABCボタン(→21、24、43ページ)
- ⑩ソロスタイルプレイボタン(→29ページ)
- ⑪スタート/ストップボタン(→19、20ページ)
- ⑫イントロ/エンディングボタン(→19、20ページ)
- ⑬フィル トウ ノーマルボタン、  
フィル トウ バリエーションボタン(→20ページ)
- ⑭スタイルボタン(→18、21、29ページ)
- ⑮ビート(拍子)ランプ(→19ページ)
- ⑯テンポ表示器(→18、21ページ)
- ⑰テンポボタン(→18、21ページ)



操作を間違えた時は、もう一度  
最初の手順からやり直してください。

ヘッドフォン端子

ヘッドフォンを接続する端子です。2本まで接続できます。  
ヘッドフォンを使うと、CVP-55のスピーカーからは  
音が出なくなりますから、夜間でも周りに迷惑をかける  
ことがありません。

CVP-55は、各機能のグループごとにパネル上のボタンが別れています。ここではそのグループごとに説明します。

→マークの応用編のページでくわしく説明してあります。

### C. 音色部

- ⑮ボイス(音色)ボタン(→11、14、15ページ)
- ⑯スプリットボタン(→15ページ)

### D. ディスクオーケストラ部

- ⑳ユーザランプ(→37ページ)
- ㉑ディスク挿入口(→31ページ)
- ㉒ディスク取り出しボタン(→37ページ)
- ㉓ソングナンバー(曲番号)表示器(→31ページ)
- ㉔ソングナンバー(曲番号)ボタン(→31ページ)
- ㉕ディスクオーケストラボタン(→31～36ページ)

### G. その他

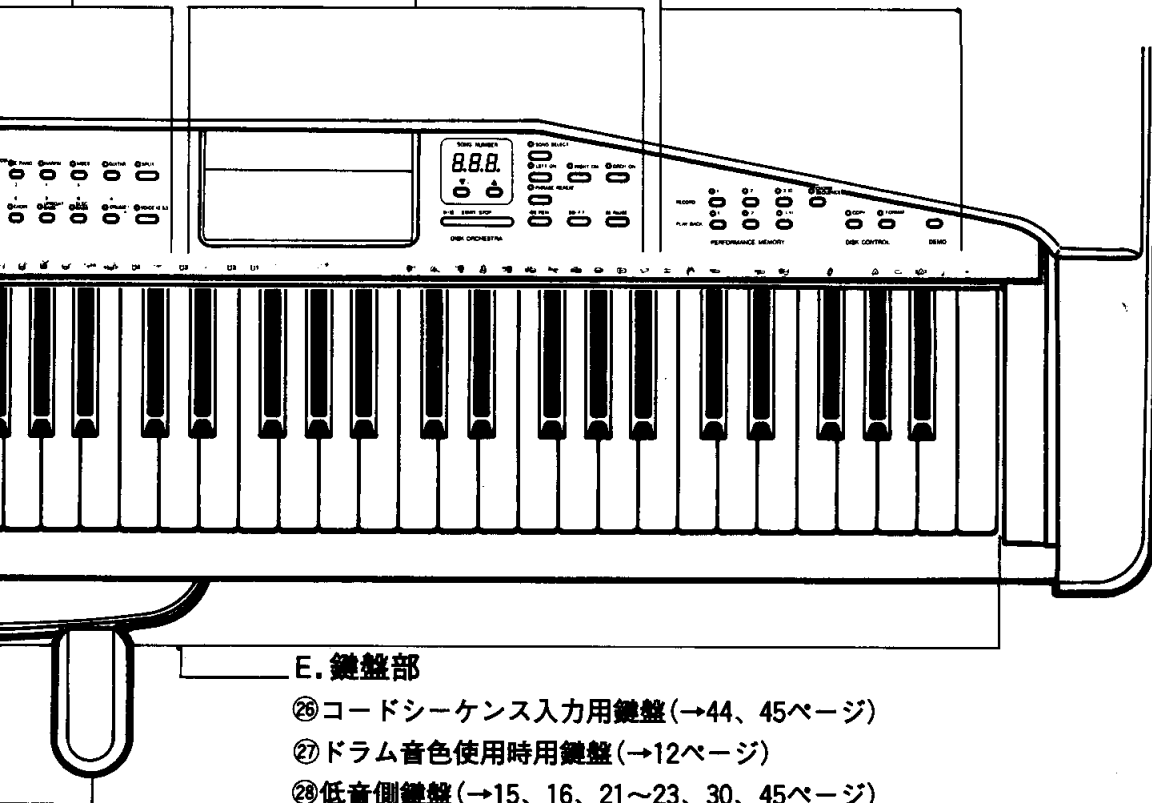
- ㉖パフォーマンスメモリーボタン(→39～43ページ)
- ㉗コードシーケンスボタン(→44ページ)
- ㉘ディスクコントロールボタン(→36、38、46～48ページ)
- ㉙デモボタン(→基本編5ページ)

### E. 鍵盤部

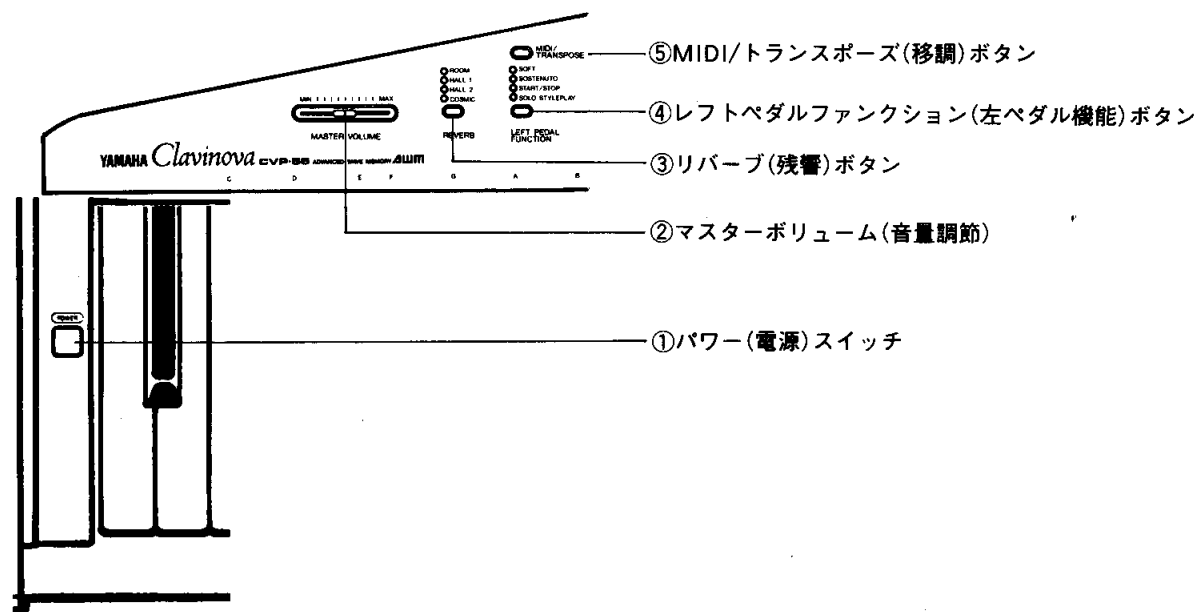
- ㉚コードシーケンス入力用鍵盤(→44、45ページ)
- ㉛ドラム音色使用時用鍵盤(→12ページ)
- ㉜低音側鍵盤(→15、16、21～23、30、45ページ)

### F. ペダル部

- ㉝レフトペダル(→基本編9ページ)
- ㉞ダンパーペダル(→基本編9ページ)



## A. 基本操作部



### ①パワー(電源)スイッチ(→基本編3ページ)

電源を入れたり、切ったりするスイッチです。

### ②マスターボリューム(音量調節)(→基本編3ページ)

全体の音量を調節するレバーで、右の方にずらすほど音が大きくなります。

### ③リバーブ(残響)ボタン(→13ページ)

リバーブをかけることができます。リバーブをかけると、音の響きが豊かになります。

4種類の中から好みの響きを選ぶことができます。

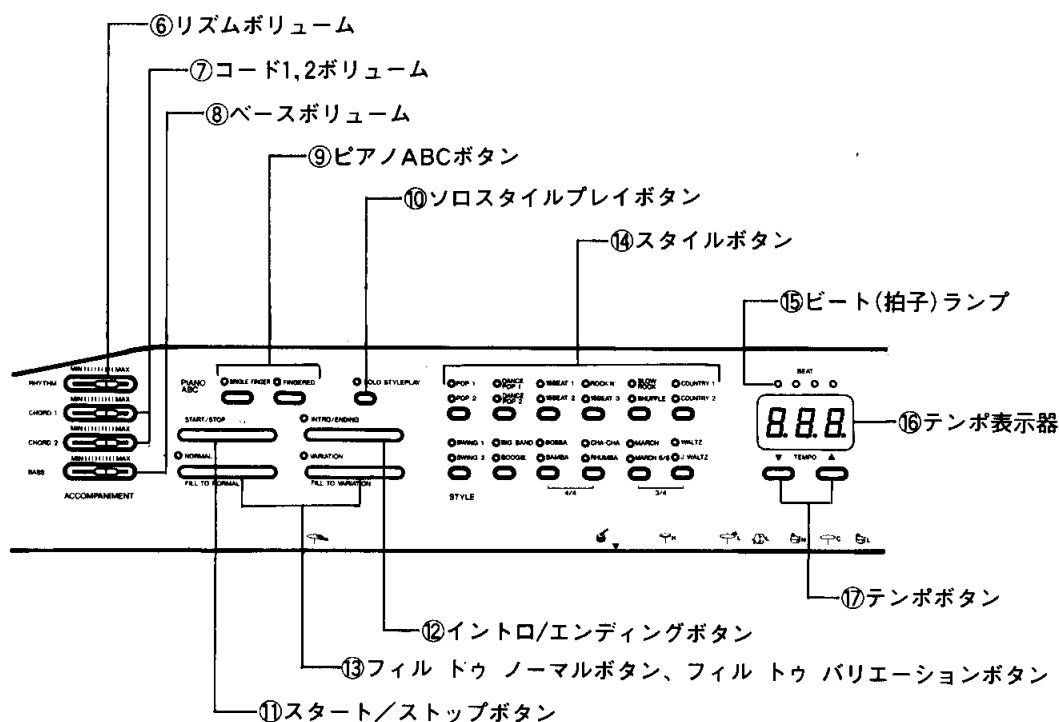
### ④レフトペダルファンクション(左ペダル機能)ボタン(→基本編9ページ)

左ペダルの機能を切り替えるボタンです。電源スイッチを入れた時はソフトペダルとして機能するようになっています。

### ⑤MIDI/トランスポーズ(移調)ボタン(→17、54～59ページ)

MIDI(ミディ)機能の設定をする時や、トランスポーズ(移調)の設定をする時に使用します。

## B. リズムスタイル部



### ⑥ リズムボリューム(→22、32ページ)

リズム音の音量を調節するレバーです。右にずらすほど音が大きくなります。

### ⑦ コード1,2ボリューム(→22、32ページ)

基本的に、コード音の音量を調節するレバーです。右にずらすほど音が大きくなります。

基本的に、コード1のボリュームではリズム的なコード音の音量を調節でき、コード2のボリュームではメロディー的なコード音の音量を調節できます。

### ⑧ ベースボリューム(→22、32ページ)

基本的に、ベース音の音量を調節するレバーです。右にずらすほど音が大きくなります。

また、MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、このレバーを操作すると、手弾き音の音量を調節することができます。

### ⑨ ピアノABCボタン(→21、24、43ページ)

リズム、コード、ベースによる自動伴奏をさせる時に使用するボタンです。シングルフィンガーボタンを押してランプを点灯させると指1本で、フィンガードボタンを押してランプを点灯させると普通のコードの押さえ方で、自動伴奏させることができます。

※ABCはオートベースコードの略です。

### ⑩ ソロスタイルプレイボタン(→29ページ)

このボタンを押すと、24種類それぞれのリズムスタイルに合わせた各パートの音色・リズムスタイル・ピアノABCが自動的にセットされます。

あれこれとボタンを押してアンサンブルの設定をしなくても、瞬時にセットアップして演奏できる機能です

### ⑪ スタート/ストップボタン(→19、20ページ)

リズムやピアノABCをスタートまたは停止させる時に押します。

また、パフォーマンスメモリーを使う時にも使用します。

### ⑫ イン트로/エンディングボタン(→19、20ページ)

イントロのパターンでリズムをスタートさせたり、エンディングのパターンでリズムを停止させる時に押します。

### ⑬ フィル トゥ ノーマルボタン、フィル トゥ バリエーションボタン(→20ページ)

リズムやピアノABCにフィルインのパターンを入れる時に押します。2つのボタンのフィルインパターンは異なります。なお、フィルイン後のパターンも異なり、ノーマルでは普通のパターン、バリエーションでは盛り上がり(サビ)のパターンになります。また、フィルインおよびバリエーションパターンは、サビだけに限らず、最初から使ってもかまいません。※フィルは、メロディーラインの空白部分などを装飾するリズムパターンのことです。

### ⑭ スタイルボタン(→18、21、29ページ)

24種類の中からリズムスタイルを選ぶことができます。

同列の上段のリズムスタイルから下段のリズムスタイルに切り替える場合、または同列の下段のリズムスタイルから上段のリズムスタイルに切り替える場合は、もう一度そのボタンを押してください。

### ⑮ ビート(拍子)ランプ(→19ページ)

拍子を目で確認できます。1番左が1拍目で赤色点灯、2,3,4番目が2,3,4拍目で緑色点灯します。

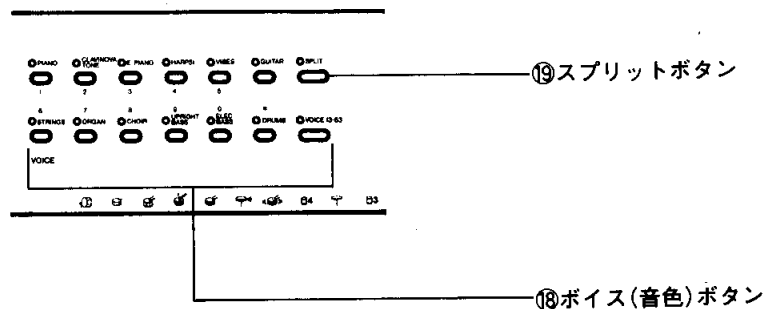
### ⑯ テンポ表示器(→18、21ページ)

リズム停止時とテンポ調節時にはリズムの速さ(テンポ)を表示し、リズムスタート後はリズムをスタートさせてからの小節数を表示します。また、音色番号13~53の番号表示もします。その他、様々な設定の表示をします。

### ⑰ テンポボタン(→18、21ページ)

リズムの速さ(テンポ)を調節できます。右側のボタン▲を押すと速くなり、左側のボタン▼を押すと遅くなります。また、音色を選ぶ時にも使用します。このボタンは、普通に押すと1ステップずつ変化しますが、強く押すと速いスピードで変化するようにになっています。

## C. 音色部



### ⑩ボイス(音色)ボタン(→11、14、15ページ)

53種類の中から音色を選ぶことができます。  
パネルに表示されているのは12種類の音色ですが、音色番号13～53の音色も簡単に選ぶことができます。

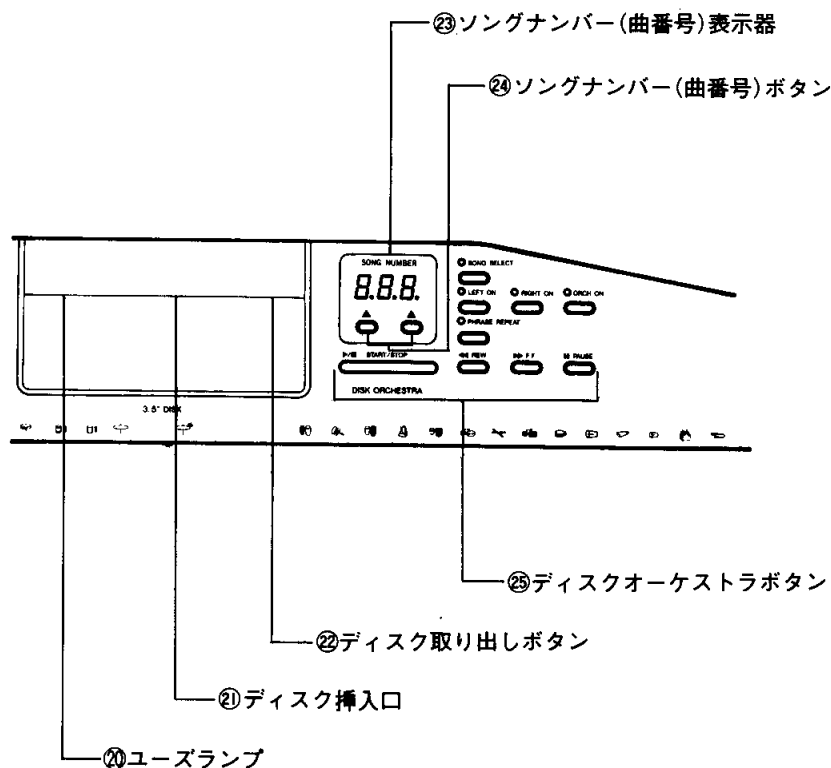
また、1～0までの音色ボタンは、音色番号13以降の音色を選ぶ時の音色数字ボタンの役割もします。  
選ばれている音色のランプが点灯しますが、音色番号13以降の音色を選んだ時は、ボイス13～53ボタンのランプが点灯します。

なお、ドラムスを選んだ場合には41種類の打楽器音を使って、自分でリズムパートを演奏することができます。(ドラムスにした時の各鍵盤への打楽器の割付が、鍵盤上部にイラストで示されています。)

### ⑨スプリットボタン(→15ページ)

低音部を高音部と異なった音色で鳴らしたい時にオンにします。低音部の音色は、このボタンを押しながら、希望する音色のボタンを押して指定します。  
低音部と高音部の境(低音部の上限)は、このボタンを押しながら、境としたい鍵盤を押すことにより変更できます。

## D. ディスクオーケストラ部



### ②① ユーズランプ (→37ページ)

CVP-55とディスクの間でデータがやりとりされている時に点灯するランプです。

### ②② ディスク挿入口 (→31ページ)

フロッピーディスクを差し込むところです。

### ②③ ディスク取り出しボタン (→37ページ)

フロッピーディスクを取り出す時に押すボタンです。

### ②④ ソングナンバー(曲番号)表示器

(→31ページ)

パフォーマンスメモリーやディスクオーケストラの状態では曲番号やフレーズ番号を指定すると、それらの番号を表示します。

その他、様々な設定の表示をします。

### ②④ ソングナンバー(曲番号)ボタン

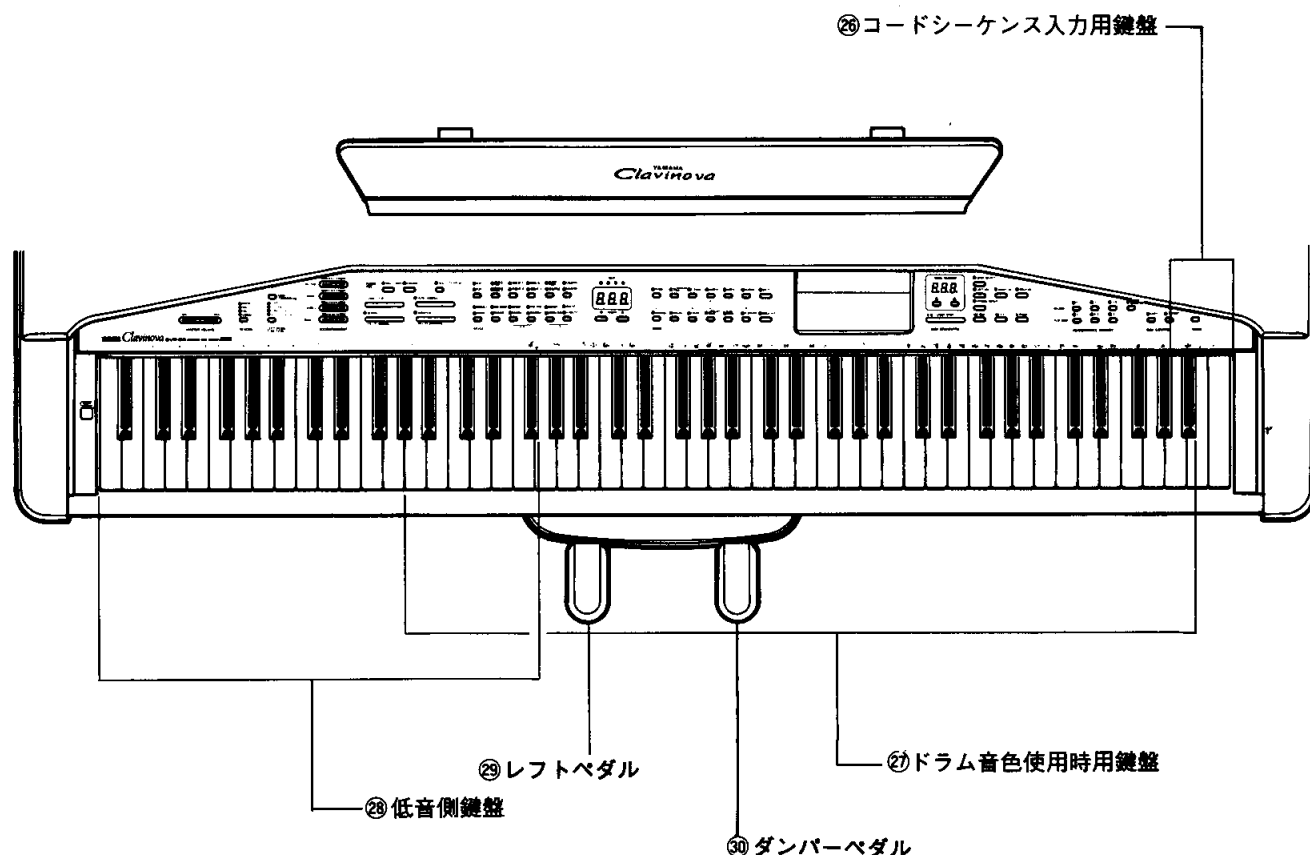
(→31ページ)

パフォーマンスメモリーやディスクオーケストラでの、曲番号やフレーズ番号の指定に使用します。また、ディスクコントロールの設定でも使用します。

### ②⑤ ディスクオーケストラボタン (→31～36ページ)

クラビノーバ用音楽ソフト「ディスクオーケストラコレクション」に収められている曲を自動演奏させたり、それを使って練習する時に使用します。

## F. 鍵盤部



### ②⑥コードシーケンス入力用鍵盤(→44、45ページ)

自分でコード進行を録音する時に、そのコードを1ステップごとに入力するのに、これらの各鍵盤を使用します。

### ②⑦ドラム音色使用時用鍵盤(→12ページ)

ドラムスの音色を指定すると、自分でリズムパートを演奏することができます。これらの各鍵盤に41種類の打楽器音が割り付けられており、鍵盤上部にイラストで表示されています。

### ②⑧低音側鍵盤(→15、16、21～23、30、45ページ)

パワースイッチをオンにした時は、▼マークのある鍵盤 (F<sup>#</sup><sub>2</sub>) より左側の鍵盤が低音側鍵盤になります。

ピアノABCやスプリット演奏など、低音部の音色が高音部と異なる場合のみ関係します。低音部と高音部の境界線(スプリットポジションといいます)は、パワースイッチをオンにした時は、▼マークのある鍵盤の位置ですが、自由な位置に変更することができます。その位置から左側の鍵盤が、低音側鍵盤となります。

### ②⑨レフトペダル(→基本編9ページ)

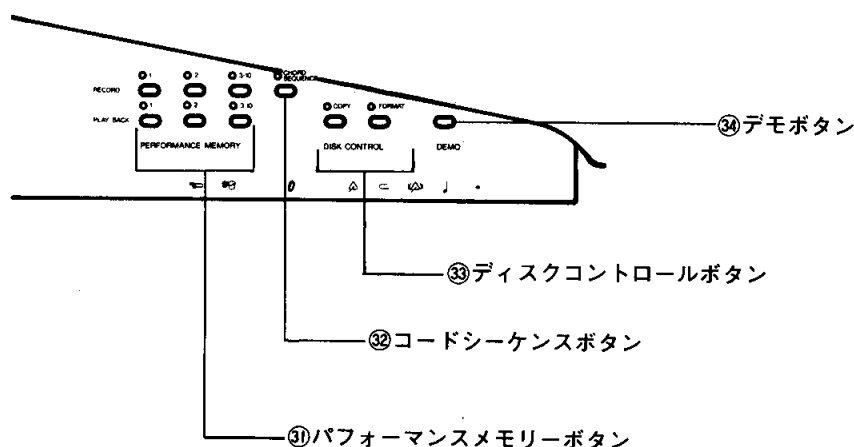
このペダルの働きは、自由に選択できます。

### ③⑩ダンパーペダル(→基本編9ページ)

このペダルを踏むと、ドラムスを除く全ての音に余韻がつきます。



## G. その他



### ③① パフォーマンスメモリーボタン(→39～43ページ)

録音用のフロッピーディスクを使用して自分の演奏を録音したり、後でそれを聴いたり、それに合わせて演奏する時に使用するボタンです。

“1”、“2”、“3-10”のように3つのボタンに割り付けられた10ヶのトラックがありますが、1つの曲の楽器編成(パート)を10トラックに分けて録音することができます。

たとえば、レコード2ボタンを押すとトラック2に演奏を録音可能になり、プレイバック2ボタンを押すとトラック2に録音済みの演奏が再生可能になります。

### ③② コードシーケンスボタン(→44ページ)

自分でコード進行を録音する時に押します。

### ③③ ディスクコントロールボタン(→36、38、46～48ページ)

パフォーマンスメモリーで使うフロッピーディスクのフォーマットや、録音した曲のコピーをする時などに使用します。

### ③④ デモボタン(→基本編5ページ)

CVP-55には、デモンストレーション曲が24曲入っています。

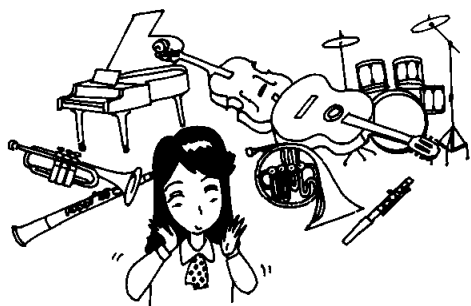
そのデモ演奏を聴く時に使用します。

デモ演奏スタート後にもう一度押すと、デモ演奏はストップします。

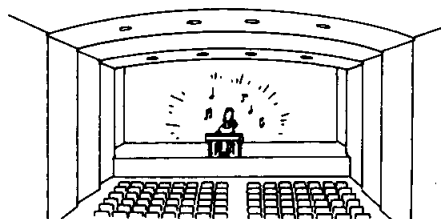
デモモードから通常の状態に戻す場合は、再びデモボタンを押します。

# ●クラビノーバの特長

リアルな響き。先進のAWM音源が楽しめる**53音色**。



コンサートホールの臨場感が再現できる**リバーブ**。



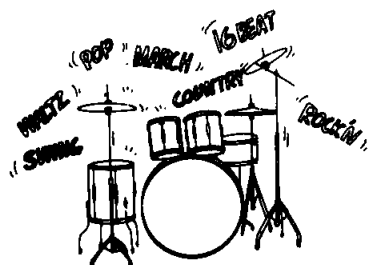
同時に2つの音色で演奏できる **デュアル機能**。



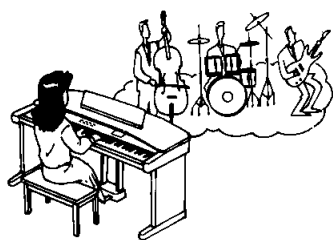
低音部と高音部を異なった音色で演奏できる**スプリット機能**。



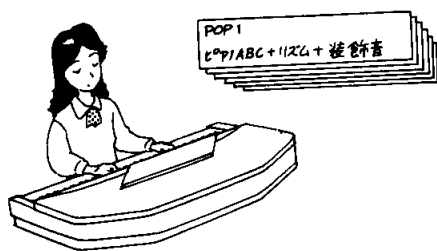
さまざまな演奏スタイルに対応する**24種類**のオートリズム。



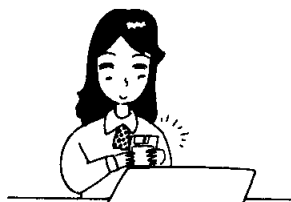
ベースとコードによる伴奏を簡単につけられる**ピアノABC**（オート・ベース・コード）。



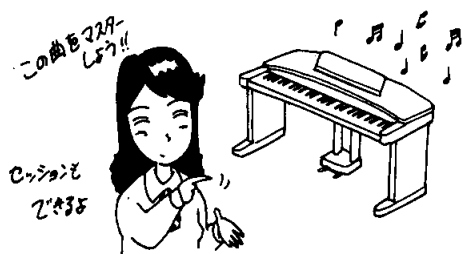
それぞれの演奏スタイルに合わせて自動セットされる**ソロスタイルプレイ**。



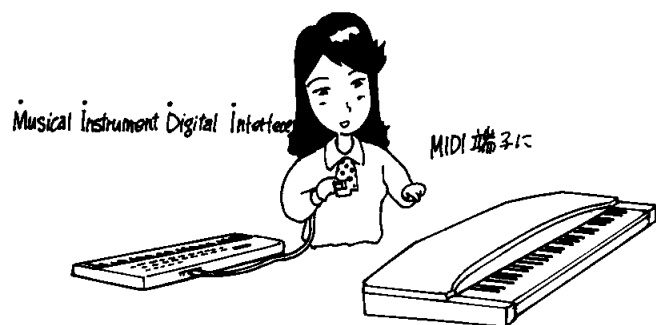
自分の演奏を録音して再生できる**パフォーマンスメモリー**。



ディスクオーケストラコレクションソフトにより、オーケストラやバンドに合わせて練習できる**ディスクオーケストラシステム**。



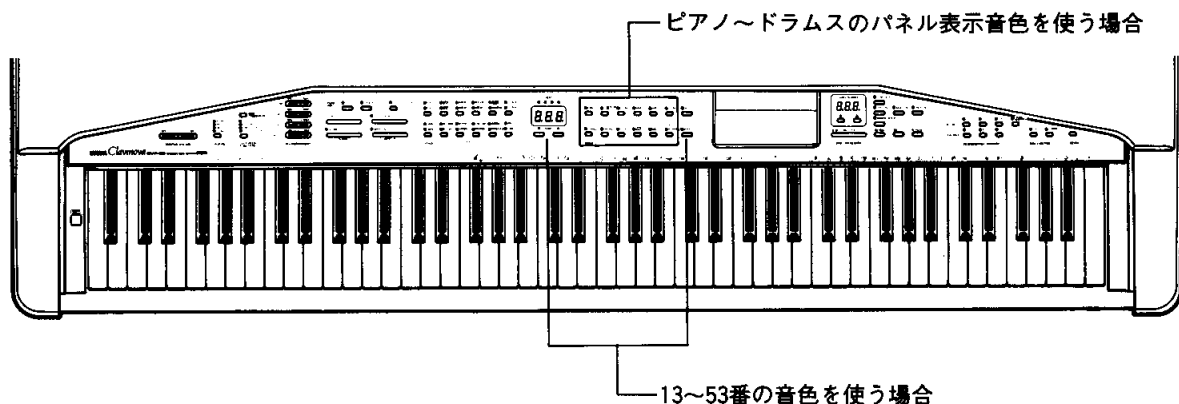
他の電子楽器と接続して同時演奏が楽しめる**MIDI端子装備**。



# 1. 音色と効果について

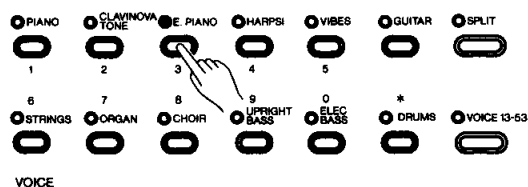
CVP-55には53種類の音色があります。いろいろな音色に切り替えて弾いてみましょう。

## ●音色を選ぶ



### ピアノ～ドラムスのパネル表示音色を使う場合

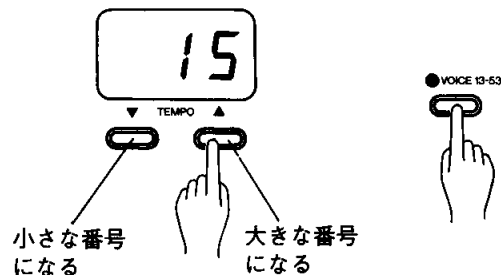
音色を選んで音色ボタンを押します。



(つまり、この場合はエレクトリックピアノが選ばれたことになります。)

### 13～53番の音色を使う場合

ボイス13～53ボタンを押しながら、テンポボタンを押して音色番号を指定します。



(つまり、この場合はトランペットが選ばれたことになります。)

#### [こんなこともできる!]

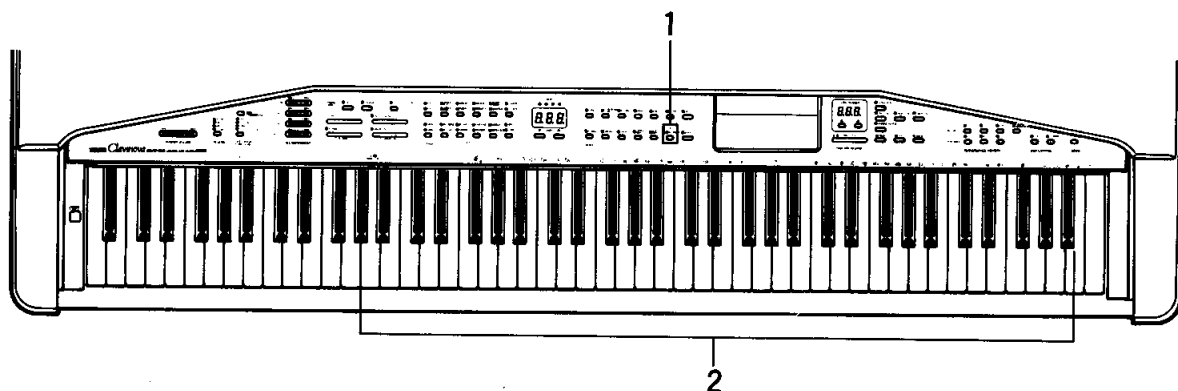
- ・13～53の範囲の音色指定方法には、もう1つあります。ドラムスボタンを押しながらボイスボタンの1～0を押して指定する方法です。最初に10の位の値を表示させ、次に1の位の値を表示させます。たとえば27番の音色を指定する場合は、ドラムスボタンを押しながら、2(クラビノーバトーン)ボタンを押し、引続きドラムスボタンを押したまま、7(オルガン)ボタンを押します。

#### [補足]

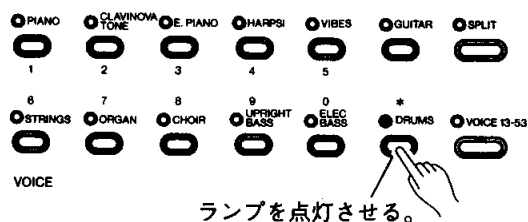
- ・基本編の8ページに音色一覧表があります。

# ●打楽器（キーボードパーカッション）について

41種類の打楽器音を使い、打楽器を担当することができます。鍵盤に各打楽器が割り付けられていますので、鍵盤を押すことにより音を出すことができます。

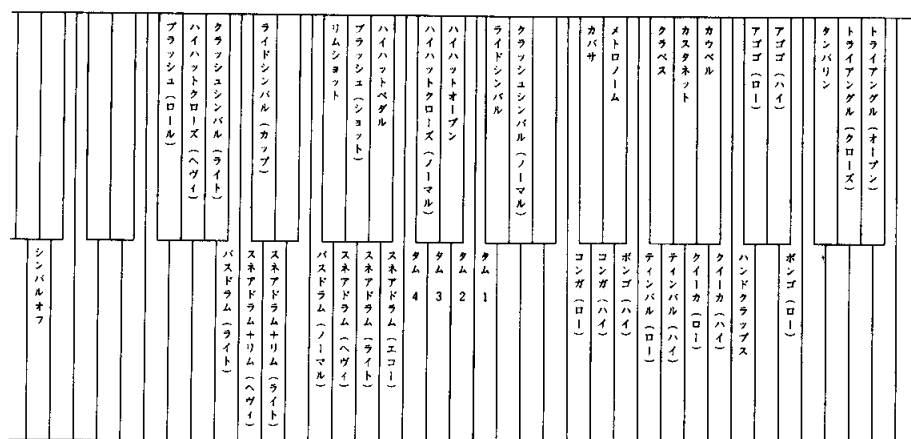


1 ボイスボタンのドラムスを押します。



2 演奏します。

A<sub>1</sub>～A<sub>6</sub>の鍵盤に各打楽器が割り付けられていますので、目的の鍵盤を押して演奏します。

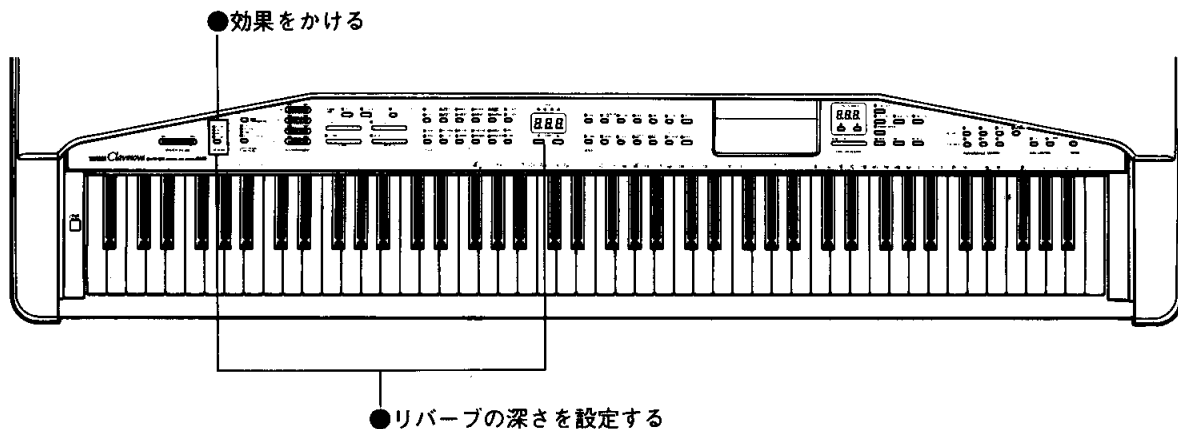


【こんなこともできる！】

- ・シンバルの音を短くしたい時は、シンバルの鍵盤を押した後、シンバルオフ(A<sub>1</sub>)の鍵盤を押してください。シンバルオフの鍵盤を押した瞬間にシンバルの音が切れます。

## ●効果（リバーブ）をかける

リバーブをかけることができます。リバーブをかけると、音の響きが豊かになります。  
リバーブボタンを押して希望する響きの選択ができます。



ボタンを押すごとに、順に切り替わります。

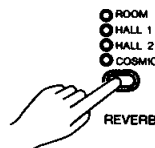


- ・ オフ：  
どのランプも点灯させない状態ではオフとなり、リバーブはかかりません。
- ・ ルーム：  
響きやすい部屋で弾いた時のリバーブがかかります。
- ・ ホール1：  
小さめのコンサートホールで弾いた時の響きが得られます。
- ・ ホール2：  
大きめのコンサートホールで弾いた時の響きが得られます。
- ・ コズミック：  
こだまのような響きが得られます。

## ●リバーブの深さを設定する

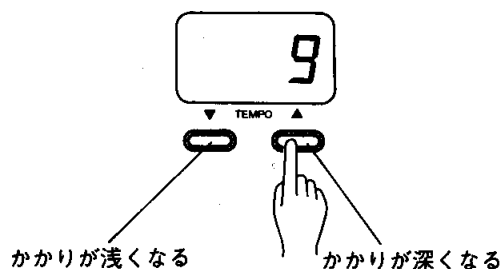
リバーブのかかる深さを自由に設定できます。テンポ表示器を見ながら設定します。

①リバーブボタンを押しながら、



②テンポボタンで深さを指定します。

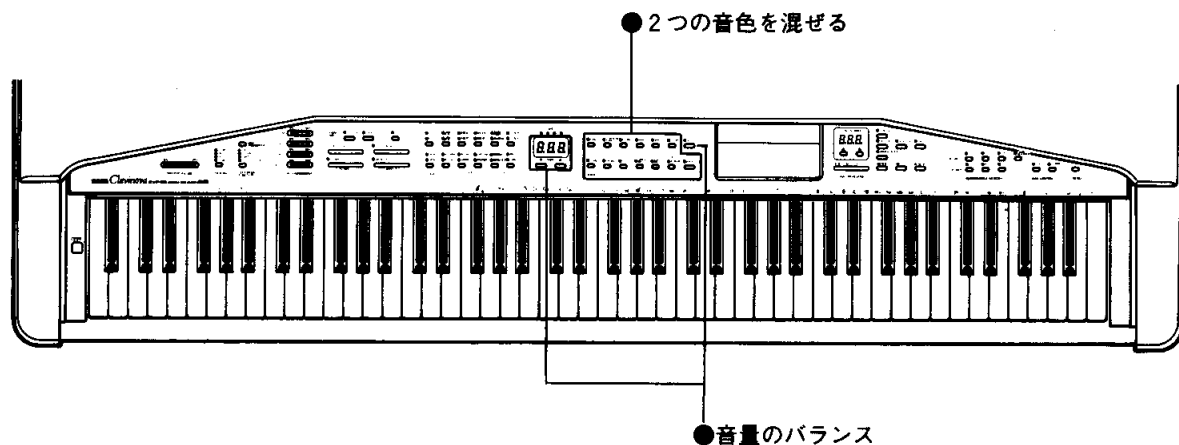
0～15の範囲で指定でき、標準は8になっています。



### 【補足】

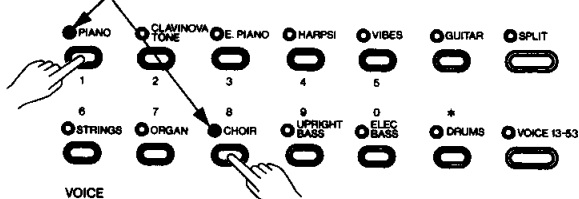
- ・ ベース音、リズム音にかかる効果の深さは浅めになっています。

## ● 2つの音色を混ぜる（デュアル機能）



2つの音色を混ぜて鳴らすことができます。組み合わせたい2つの音色のボタンを同時に押します。

選んだ音色のランプが両方点灯



(つまり、この場合はピアノとクワイアが選ばれたことになります。)

### ● 音量のバランスについて

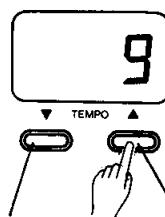
2つの音色の音量バランスを変えることができます。

①スプリットボタンを押しながら、



②テンポボタンでバランスを指定します。

1～15の範囲で指定でき、標準は8になっています。  
テンポ表示器を見ながら設定します。



小さい音色番号(ピアノ)  
の音量バランスが大きく  
なります。

大きい音色番号(クワイ  
ア)の音量バランスが大  
きくなります。

#### 【補足】

・1音色の状態に戻す時は、通常通り1音色の指定をします。(2音色の状態から1音色の状態に戻ります。)

#### 【アドバイス！】

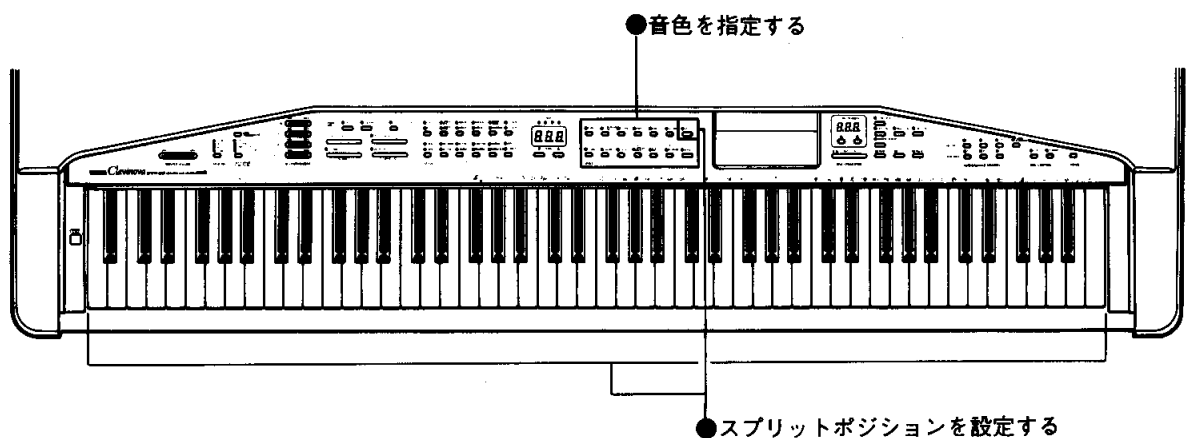
・この機能を使うと音に厚みが出ます。サビなどに使うと効果的です。  
・13-53ボタンに記憶されている音色も、片方の音色として使うことが可能です。

#### 【注意！】

・ドラムスの音色は指定できません。  
・13～53の範囲の音色同士を組み合わせることはできません。  
・スプリット機能使用時は2つの音色を混ぜて鳴らすことはできません。

## ● 2つの音色を選んで弾く（スプリット機能）

低音部を弾く音と高音部を弾く音の音色を、異なったものにして演奏できます。それぞれの音色を指定できます。



### ● スプリットポジションを設定する

#### ① スプリットボタンを押します。

ランプが点灯して、スプリット演奏が可能になります。

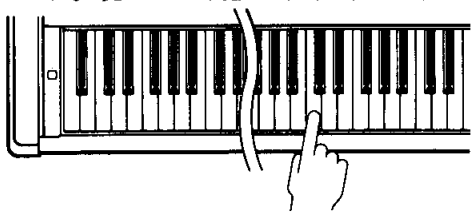


#### ② スプリットポジションを変更できます。

スプリットボタンを押しながら、

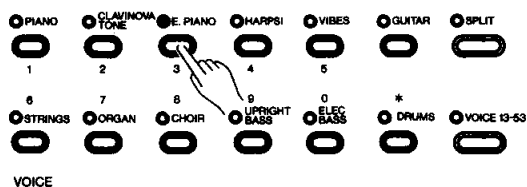


低音部と高音部の境にしたい鍵盤を押して指定します。境にした鍵盤は低音部側に含まれます。



### ● 音色を指定する

#### ① 高音部の音色を指定します。

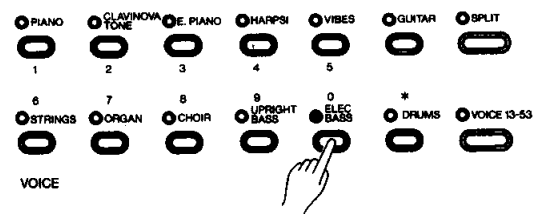


#### ② 低音部の音色を指定します。

スプリットボタンを押しながら、



ボイスボタンを押して指定します。



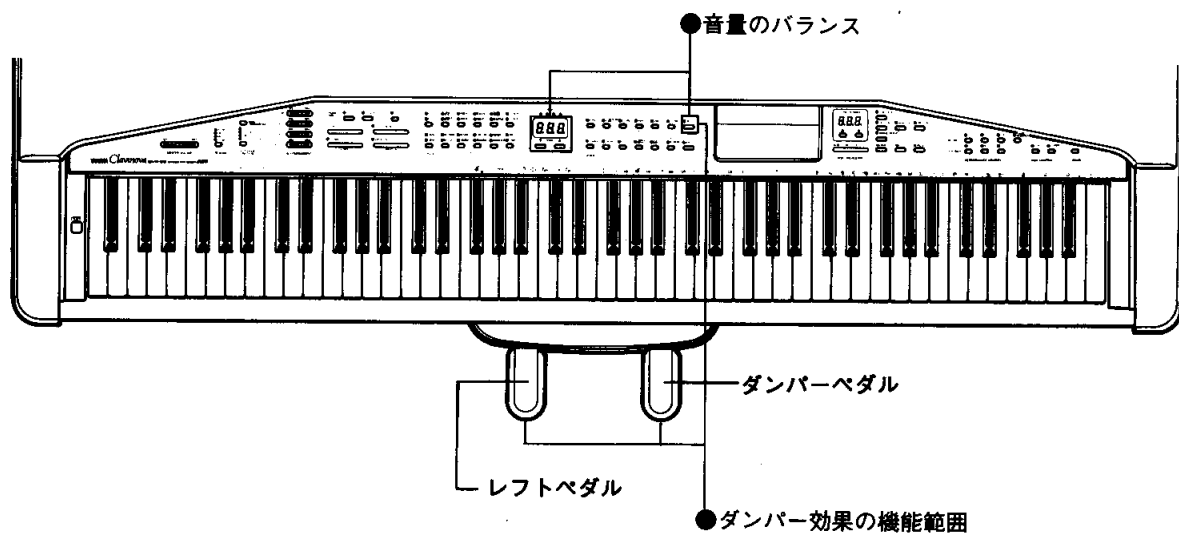
#### 【補足】

- ・ パワースイッチをオンにした時は、スプリットポジションは▼マークのある鍵盤(F#2)に設定されます。
- ・ パワースイッチをオンにした時は、高音部の音色はピアノ、低音部の音色はアップライトベースになります。

#### 【注意！】

- ・ デュアル機能とスプリット機能は同時に使えません。
- ・ 低音部の音色にベースの音色以外を指定した場合、その音色は1オクターブ高く発音されます。





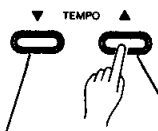
### ●音量のバランスについて

低音部と高音部の音量バランスを変えることができます。

①スプリットボタンを押しながら、

②テンポボタンでバランスを指定します。

1～15の範囲で指定でき、標準は8になっています。  
テンポ表示器を見ながら設定します。



低音部(エレクトリック  
ベース)の音量バランス  
が大きくなります。

高音部(エレクトリック  
ピアノ)の音量バランス  
が大きくなります。

### ●ダンパー効果の機能範囲について

ダンパーペダルの機能範囲を変えることができます。

①スプリットボタンを押しながら、

②ダンパーペダルを踏むと：

高音部にのみ効果可能になります。

レフトペダルを踏むと：

低音側にのみ効果可能になります。

ダンパーペダルとソフトペダルを踏むと：

高音部と低音部の両方に効果可能になります。

#### 【補足】

・レフトペダルによるソフト、ソステヌート機能は、高音部と低音部の両方に効果可能です。

#### 【注意！】

・パワースイッチをオンにした時は、高音部にのみダンパー効果を加えることが可能になります。

## ●音程を変える（トランスポーズ）

押さえる鍵盤（運指）を変えずに、歌う人の声の高さにキーを合わせることができます。（つまり、弾く高さで発音される音の高さをずらすことができます。）

音程を変える時にはここに示すトランスポーズという機能を使って、希望する量だけずらしてください。

★±6半音の範囲でずらすことができます。つまり”ド”の音なら高い方に最大で”ファの#”（半オクターブ）まで、低い方も最大で”ファの#”（半オクターブ）までずらすことができます。

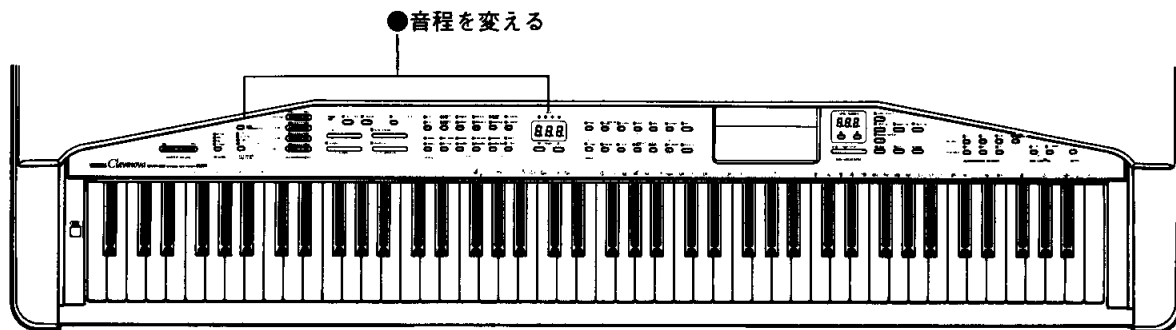
たとえば+5半音ずらすと



のように弾いたものが



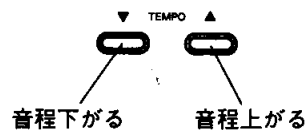
のように鳴ります。



1 MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、



2 テンポボタンで移調量を指定します。  
テンポ表示器を見ながら設定できます。



### 【アドバイス！】

・この機能は合奏などで弾き方を変えずに他の楽器とキーを合わせる時にも便利です。

### 【補足】

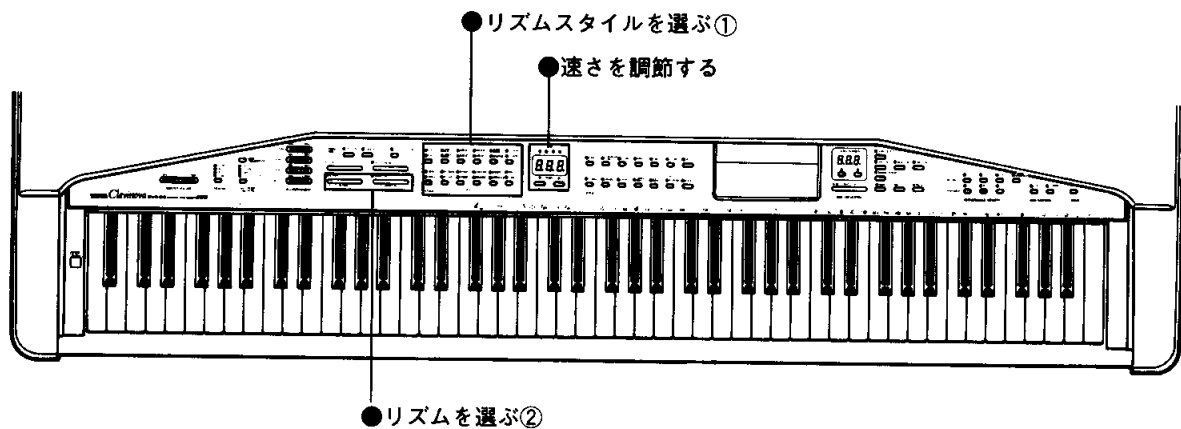
- ・たとえば”ド”の音を”ファ”の音に変えたい時は、5半音高くすればよいわけですから、値を+5(表示は5)にします。
- ・発音中の音については移調量を変更しても、移調された音では発音されません。次の押鍵から移調された音程で発音されます。
- ・パワースイッチをオンにした時は、いつも元の高さに戻っています。また、▼ボタンと▲ボタンを同時に押せば0に戻ります。

### 【注意！】

・トランスポーズの結果により発音域(A<sub>1</sub>～C<sub>7</sub>)以外となった鍵盤を弾いた時は、高音発音域外は1オクターブ低く発音され、低音発音域外は1オクターブ高く発音されます。

## 2. リズムを使って演奏する

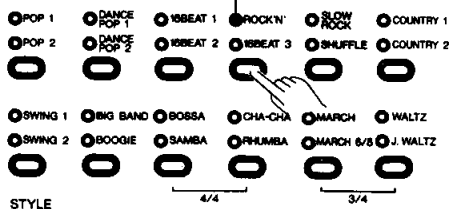
CVP-55には24種類のリズムスタイルがあります。いろいろなリズムスタイルに合わせて演奏できます。



### ●リズムスタイルを選ぶ

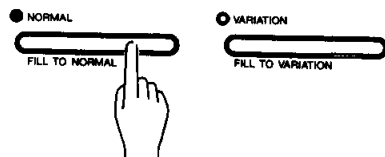
①スタイルボタンでリズムスタイルを選びます。

選んだリズムスタイルのランプが点灯

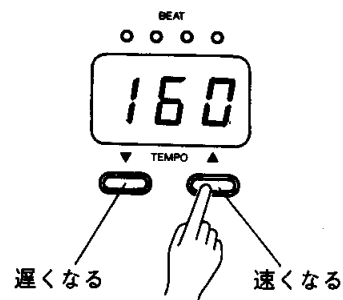


各ボタンの上段のリズムスタイルから下段のリズムスタイルに切り替える場合、または下段のリズムスタイルから上段のリズムスタイルに切り替える場合は、もう1度そのボタンを押してください。

②ノーマルかバリエーションかを選びます。



### ●速さ（テンポ）を調節する



テンポ表示器で1分間の拍数を見ながら設定します。

#### 【補足】

- 各リズムスタイル共にノーマルとバリエーションの2パターンがあるので、48種類のリズムパターンがあるという見方もできます。
- リズムが止まっている時に、リズムを切り替えると、自動的にそのリズムの標準テンポに変わります。
- パワースイッチをオンにした時は、いつもポップス1の標準テンポ＝86に戻っています。また、▼ボタンと▲ボタンを同時に押すと、選ばれているリズムスタイルの標準テンポに戻ります。

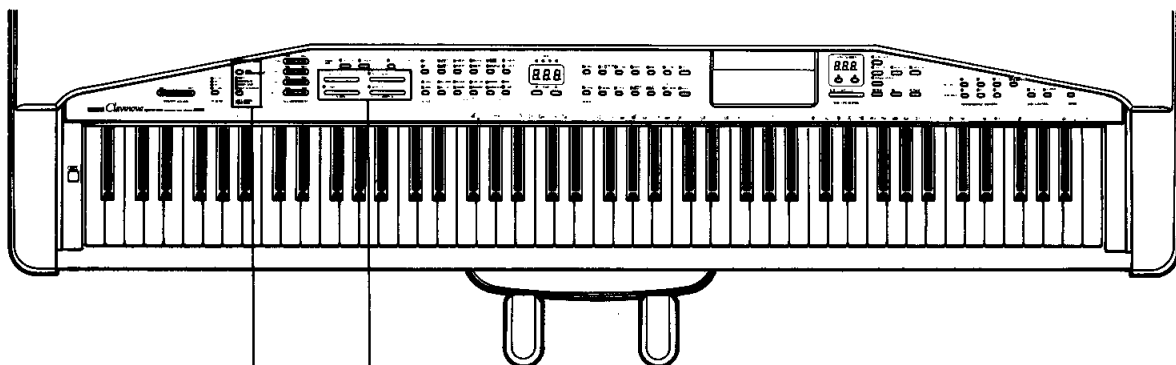
#### 【注意！】

- リズムスタイルを2つ選んで、いっしょに鳴らすことはできません。

#### 【こんなこともできる！】

- テンポボタンは、区切って押すと値が1ステップずつ変わります。また、強く押し続けると素早く連続して変わり、弱く押し続けるとゆっくり連続して変わります。
- ボサノバボタンとチャチャボタンを同時に押すことにより、メトロノーム4/4のパターンをスタートさせることができます。また、マーチボタンとワルツボタンを同時に押すことにより、メトロノーム3/4のパターンをスタートさせることができます。ノーマルでは1拍目のみ強拍、バリエーションでは全拍とも強拍で発音されます。

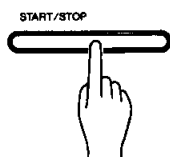
## ●リズムのスタートの種類について



●リズムのスタート

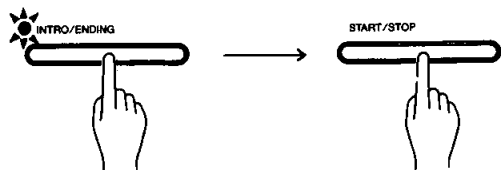
### すぐにスタートさせる場合

スタート/ストップボタンを押す。



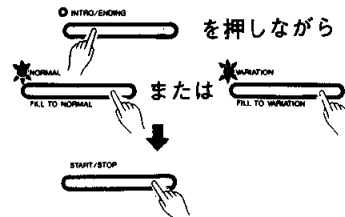
### イントロパターンからスタートさせる場合

- ①イントロ/エンディングボタンを押す(イントロ/エンディングボタンのランプが点滅)、
- ②次にスタート/ストップボタンを押す(イントロの間イントロ/エンディングボタンのランプが点灯になり、イントロ後消灯する)。



### フィルインのパターンからスタートさせる場合

- ①イントロ/エンディングボタンを押しながら(イントロ/エンディングボタンのランプが点滅)、
- ②フィル トゥ ノーマルボタンまたはフィル トゥ バリエーションボタンを押す(フィルボタンの点滅に変わる)、
- ③次にスタート/ストップボタンを押す(フィルインの間フィルボタンのランプが点滅し、フィルイン後点灯に変わる)。



### ペダルによりスタートさせる場合

レフトペダルファンクションの設定をスタート/ストップにすれば、レフトペダルを踏むことによりリズムがスタートし、もう一度踏むと停止します。



リズムをスタートさせた後は、ビートランプの点灯が左から順に、1拍ごとに移動します。

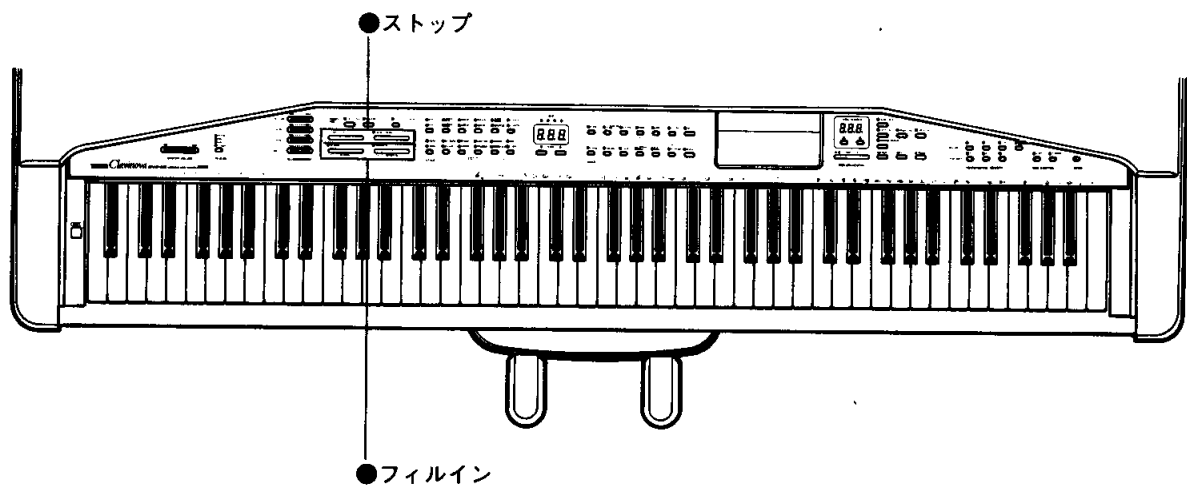


### 【こんなこともできる！】

・手弾き演奏の開始と共にスタート(シンクロススタート)させることもできます。MIDIトランスポーズボタンを押しながら、フィル トゥ ノーマルボタンを押してください。シンクロススタートを解除する時は、もう一度同じ操作をします。

### 【補足】

- ・ピアノABC機能(21ページ参照)を使っている場合は、低音部の鍵盤(スプリットポジションより左側の鍵盤)を押すとスタートします。
- ・イントロパターンの標準の長さは、2小節です。
- ・フィルインスタートのパターンは1小節です。
- ・イントロパターンからスタートさせた場合は、リズムをストップすると、イントロ状態が保持され、ランプが点滅します。解除するには、再度イントロ/エンディングボタンを押して下さい。



## ●フィルインを入れる



**フィル トウ ノーマル：**

フィルインパターンの後(フィルインの間点滅)、  
ノーマルパターンになります(フィルイン後点灯)。

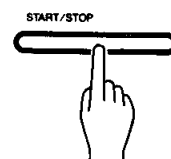
**フィル トウ バリエーション：**

フィルインパターンの後(フィルインの間点滅)、  
バリエーションパターンになります。(フィルイン後点灯)

## ●リズムのストップの種類について

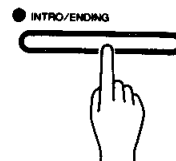
### すぐに停止させる場合

スタート/ストップボタンを押す。



### エンディングのパターンで停止させる場合

イントロ/エンディングボタンを押す(エンディングの間ランプが点灯)。



### 【こんなこともできる！】

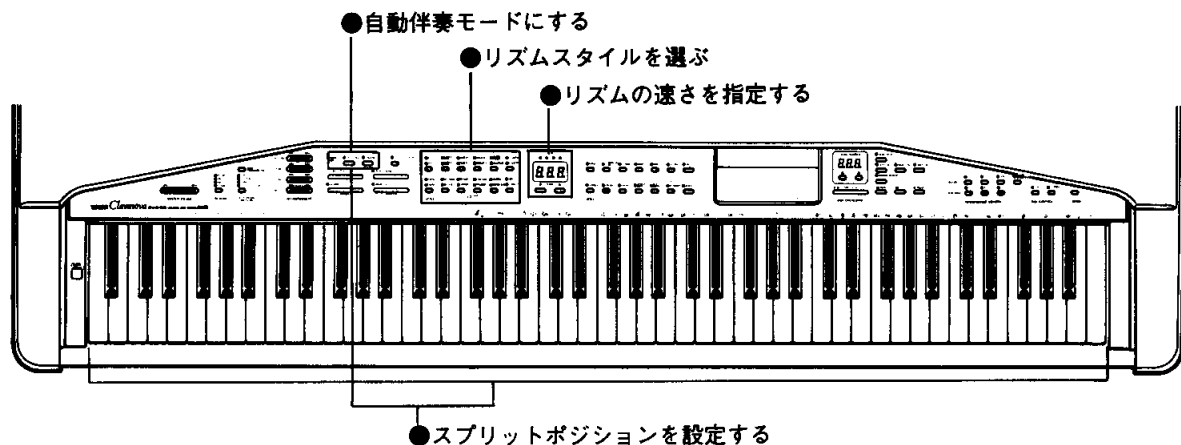
- ・演奏中、別のリズムスタイルに切り替えることもできます。切り替えるリズムスタイルのボタンを押してください。

### 【補足】

- ・フィルインは、最長で1小節です(押すタイミングで長さが異なります)。  
また、押し続けるとフィルインのパターンが繰り返されます。
- ・フィルイン中にもう一度同じフィルインボタンを押すと、フィルインパターンが解除されて、ノーマルまたはバリエーションのパターンに戻ります。
- ・エンディングパターンは2～8小節です。小節の前半でボタンを押した時はその小節からエンディングが入り、後半で押した時は次の小節から入ります。

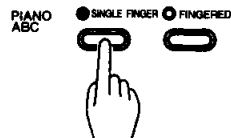
## ●自動伴奏（ピアノABC）で楽しもう

ピアノABC機能を使って、自動伴奏させてみましょう。曲の流れにそって左手(低音部)でコードを演奏していけば、リズム、コード、ベースによる自動伴奏が鳴ります。



### ●自動伴奏(ピアノABC)モードにする

好みに合わせて、シングルフィンガーか、フィンガードの状態にしてください。(ビートランプの1拍目(赤)がテンポに合わせて点滅し始めます。)



#### シングルフィンガー機能を使う場合

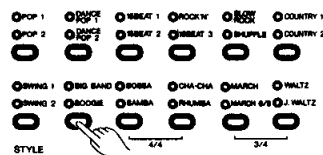
コードを押さなくても、簡単に自動伴奏させることができます。たとえばメジャーコードなら指1本で、その他のコードでも2,3鍵押さえるだけでOKです。

#### フィンガード機能を使うと

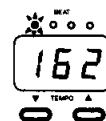
普通のコードの押さえ方で自動伴奏させることができます。

ピアノABC状態にするとスタート待機状態になります。(低音部の鍵盤を押すと自動伴奏がスタートします。)

### ●リズムスタイルを選ぶ



### ●リズムの速さを指定する

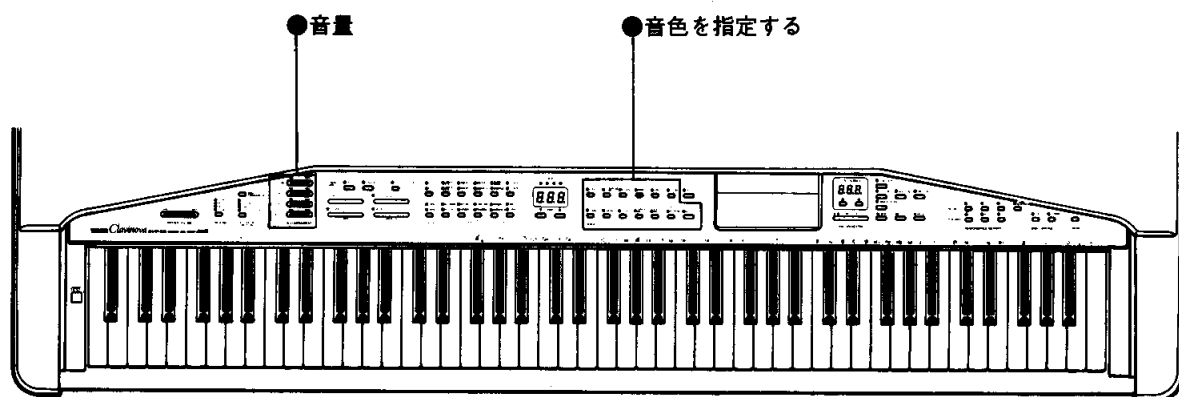


#### 【補足】

- ・シングルフィンガーコードの場合は、4種類のコードに限定されますが、フィンガードの場合は、20種類のコード指定に対応します。
- ・コード音、ベース音の音色は、リズムスタイルを選択した時点で自動設定されます。
- ・パワースイッチをオンにした時は、スプリットポジションは▼マークのある鍵盤(F#2)に設定されます。
- ・境にした鍵盤は低音部側に含まれます。

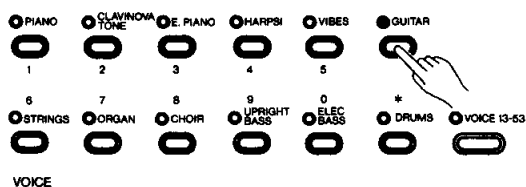
#### 【こんなこともできる！】

- ・シングルフィンガーボタン、またはフィンガードボタンを押しながら、低音部(左手和音)と高音部(右手メロディー)の境にしたい鍵盤を押すことにより、スプリットポジションを変更できます。



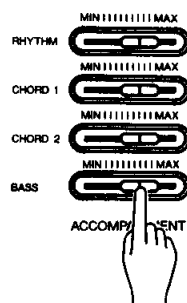
### ●音色を指定する

高音部(右手の演奏音)の音色を指定します。



### ●音量(ボリューム)について

リズム音の音量をリズムボリューム、和音の音量をコード1および2ボリューム、ベース音の音量をベースボリュームで、それぞれ調節します。



#### 【注意！】

- ・各パートのボリュームが最小(MIN)の位置にあると、そのパートの音は出ません。
- ・マスターボリュームが最小(MIN)の位置にあると、全ての音が出ません。

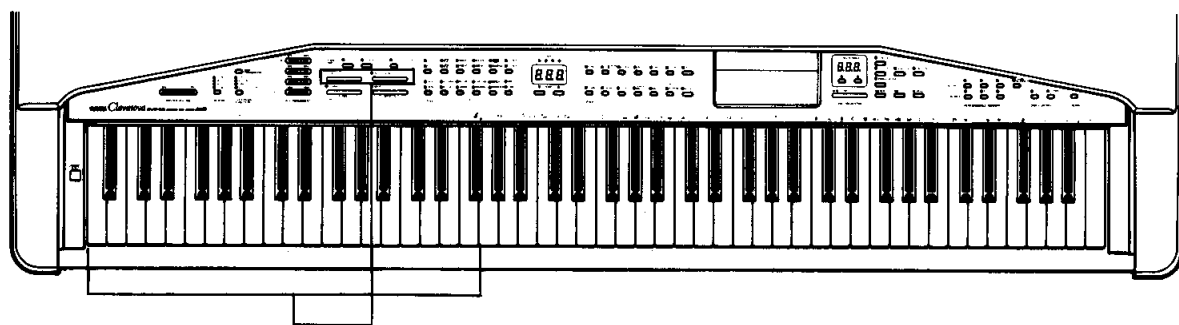
#### 【こんなこともできる！】

- ・MIDI/トランスポートボタンを押しながら、ベースボリュームを操作することにより、高音部の音量を調節できます。(調節後、ベースボリュームは通常の機能に戻ります。)
- なお高音部の音量調節後は、ベース音の音量とベースボリュームの位置とは異なりますのでご注意ください。

#### 【アドバイス！】

- ・4つのパートのボリュームを上図のような位置にセットすれば、全ての伴奏パートが標準的なバランスで鳴ります。
- ・4つのパートを全て鳴らすと厚みのある伴奏になりますが、曲によってはなじまないパートがあったり、右手メロディーと伴奏音がぶつかってしまうことがあります。このような場合は、コード2のボリュームを最小にしてください。これにより、伴奏パターン用途が広がります。

## ●演奏をスタートする/ストップする



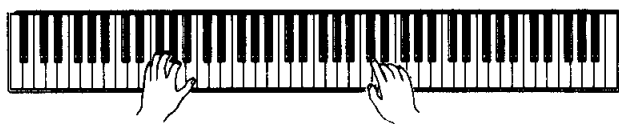
●演奏をスタートする/ストップする

### 演奏のスタート方法

#### リズムと伴奏を同時にスタートさせる場合

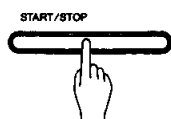
低音部の鍵盤を押した時点で、自動伴奏がスタートします。

低音部の鍵盤から指を離しても、そのコードの伴奏が続きます。つまり低音側の鍵盤は、コードを変える時だけ押せばそのまま接続します。



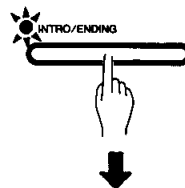
#### リズムを先にスタートさせる場合

スタート/ストップボタンを押す。



### イントロスタートさせる場合

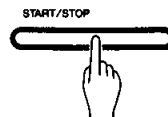
- ①イントロ/エンディングボタンを押し、
- ②低音部の鍵盤を押す。



### 演奏のストップ方法

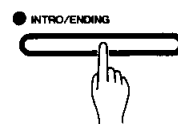
#### すぐにストップさせる場合

スタート/ストップボタンを押す。



#### エンディングパターンでストップさせる場合

イントロ/エンディングボタンを押す。



#### 【アドバイス！】

- ・コードを変える時、指を鍵盤から離さないで動かすと、コードが思いどおりに変わらないことがあります。鍵盤から指を一旦離した上で、次の鍵盤を押すようにしてください。
- ・フィル トゥ ノーマルボタン、またはフィル トゥ バリエーションボタンを押して、フィルインやバリエーションパターンを入れると、より表現豊かな伴奏になります。

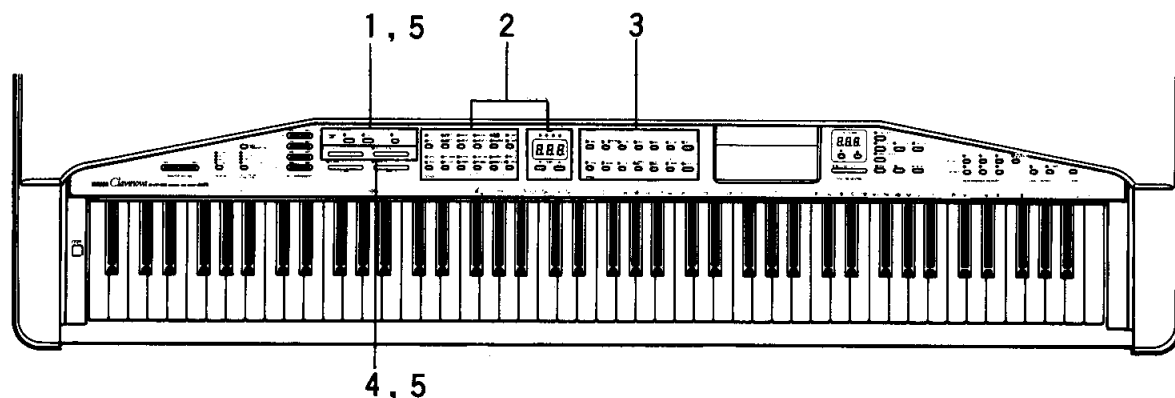
#### 【アドバイス！】

- ・付属の“シングルフィンガーコード一覧表”、および“フィンガードコード一覧表”を参照してください。



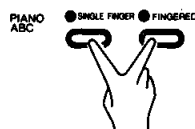
# ●フルキーボードABCで演奏

フルキーボードABCの機能を使った時は、全ての鍵盤の範囲が自動伴奏用の鍵盤になります。つまり通常のピアノ演奏をしながら、コードを変える時に押さえやすい所でコードを押さえることができます。



## 1 フルキーボードABCモードにする

シングルフィンガーボタンとフィンガードボタンを同時に押します。(ビートランプの1拍目(赤)がテンポに合わせて点滅し始めます。)



両方のランプが点灯します。

フルキーボードABCの状態にするとスタート待機状態になります。(フィンガードコードの押え方で押さえると自動伴奏がスタートし、コードでない押え方をするとリズムだけがスタートします。)

## 2 リズムスタイル、リズムの速さを指定する

### 3 音色を指定する

- ・スプリット機能を使う場合：  
手弾き音(低音部の押鍵音、高音部の押鍵音)の各音色を指定できます。
- ・デュアル機能を使う場合：  
手弾き音の2音色を指定できます。
- ・いずれの機能も使わない場合：  
手弾き音の音色を指定できます。

## 4 演奏の開始

スタート/ストップボタンを押して、リズムのみにスタートさせることも可能です。

★コードはフィンガードコードの押さえ方をしてください。

## 5 演奏の終了

- ①スタート/ストップボタンまたはイントロ/エンディングボタンを押して、演奏を終了します。
- ②フルキーボードABCの状態を解除する場合は、シングルフィンガーボタンまたはフィンガードボタンを2回押してください。

### [補足]

・フルキーボード機能は、ヤマハのポータブルキーボードで使われていた技術を応用した機能です。

### [注意!]

- ・コードの検出は、コードの構成音を3音以上同時に弾いた時のみ行なわれます。それ以外の押鍵では、前のコード伴奏を継続します。
- ・5音以上を同時に弾いた場合は、それらの低音側4鍵でコード検出を行ないますので、その4鍵でコードの構成音が3音以上ない場合は、前のコード伴奏を継続します。

## ●楽譜の読み方

### ■鍵盤と五線譜の関係



### ■音符と休符の長さ

#### 音符

音符の種類と名称	4分音符と比較した長さ
全音符	4つ分の長さ
付点2分音符	3つ分の長さ
2分音符	2つ分の長さ
4分音符	1つ分の長さ
8分音符	半分にする
16分音符	1/4にする
3連音符	3等分する

(3連音符は3等分)

#### 休符

休符の種類と名称	4分音符と比較した長さ
全休符	4つ分休む
付点2分休符	3つ分休む
2分休符	2つ分休む
4分休符	1つ分休む
8分休符	7(77777777)
16分休符	15(1515151515151515)

### ■記号の意味

記号と読み方	意味
♯ シャープ	半音上げる
♭ フラット	半音下げる
♮ ナチュラル	もとの音にもどす
〜 タイ	音を続ける
〜 スラー	なめらかに
⤿ フェルマータ	その音をのばす
Tacet タセツ	伴奏を休む
Fine フィーネ	おわり

記号と読み方	意味
: :   リビート	くりかえし
1. 2. 1番かっこ 2番かっこ	くりかえしのあとへ
D.C. ダカーボ	最初からくりかえし
D.S. ダルセーニョ	記号 ♯ からくりかえし
⌂ Coda コード	くりかえしのあと ♯ から ⌂ Coda へ

## ●転回テクニックで楽々演奏

付属の“フィンガードコード一覧表”で見ても解るように、コード名の頭の大文字がほとんど最低音になって載っています。このように大文字、つまり専門用語で“ルート”とか“根音”と呼ばれる音を最も低い音にしたカタチをコードの“基本形”といいます。

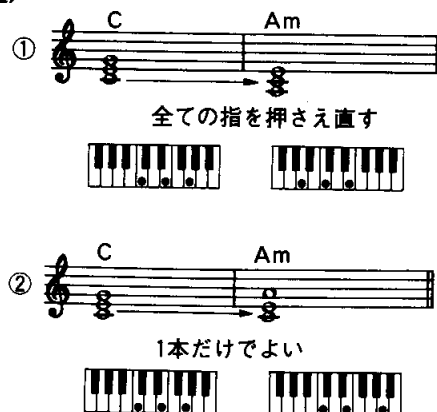
これに対し、音の積み重ねの順番を少し変えたものを“転回形”といいます。たとえば、Cメジャーコードを例にとると基本形は“ドミソ”ですが、〈例1〉のように、それを転回して“ミソド”と弾いても、“ソドミ”と弾いても、Cメジャーコードには変わりありません。

〈例1〉



このような転回のワザを身につけると、響きを楽しめるのと同時に、ピアノABC機能を使う時、演奏が楽になります。たとえば〈例2〉を見てください。①の方はCコードもAmコードも基本形ですが、CからAmに移る際“ドミソ”から“ラドミ”と変えなければいけないため、全ての指を押さえ直さなければなりません。次に②の方を見てください。こちらはAmコードに転回のワザを加えたものです。ソを押さええている指1本をとなりに動かすだけで、簡単にコードを変えることができます。

〈例2〉






## ●楽譜

パフォーマンスメモリー機能を使ってピアノABCとオブリガートを録音し、それに合わせて弾いてみましょう。  
(37ページ参照)

- ①まず、1トラックのレコードボタンをオンにして、ピアノABCを録音します。
- ②トラック2にオブリガートを録音します。
- ③それらを、再生させながらメロディーを弾きます。

### セッティング

リズム スタイル	ポップ1	リズム ボリューム	RHYTHM 
テンポ	J = 66	コード1 ボリューム	CHORD 1 
ピアノABC	フィンガード	コード2 ボリューム	CHORD 2 
スプリット ポジション	F# <sub>2</sub>	ベース ボリューム	BASS 
オブリガート 音色	ジャズオルガン (音色番号29)	メロディー 音色	好みの音色で！

### いとしのエリー

作詞・作曲：桑田佳祐

[INTRO] スタート (1×休み)



オブリガート (トラック2)

メロディー (トラック1)

フィンガードコード

C Em

C<sub>7</sub> F Dm G C D<sub>7</sub>

1. 2.

F G C FILL TO NORMAL F G C A<sub>7</sub>

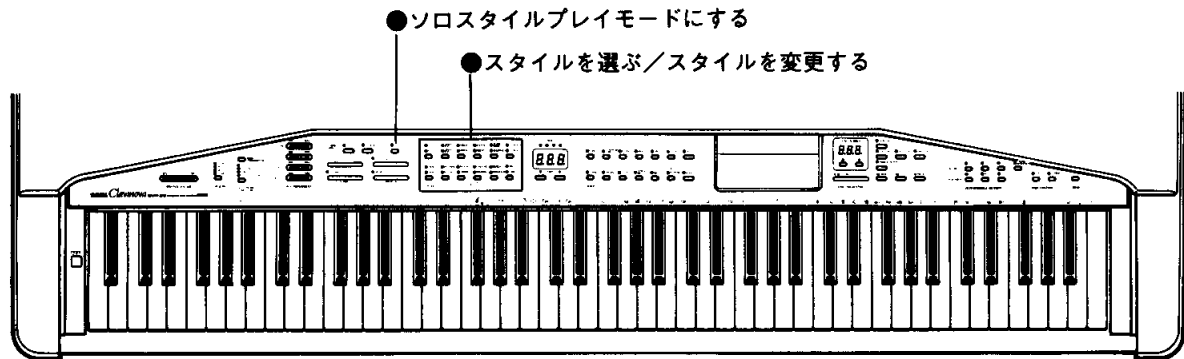
Dm G Em Am Dm G Em Am

F G Em A F G C D<sub>7</sub>

F G C ENDING

## ●ソロスタイルで楽しもう

24種類のリズムスタイルの中から好みのスタイルを選び、瞬時にセットアップして演奏できる機能です。選択により音色や装飾音が自動的にセットアップされると共に、ピアノABCの状態になります。演奏すると、右手の演奏音に装飾音が加わります。さあ、ソロスタイルで楽しみましょう。



### ●ソロスタイルプレイモードにする

ソロスタイルプレイボタンを押します。

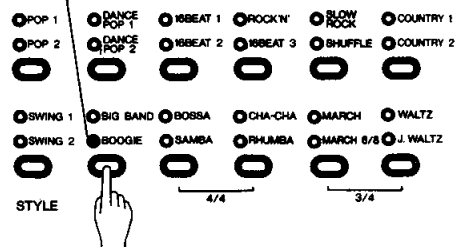


★ピアノABCモードになっていない時は、自動的にシングルフィンガーコードのスタート待機状態になります。

### ●スタイルを選ぶ

スタイルを選んでボタンを押します。

選んだスタイルのランプが点灯する。



### ●スタイルを変更する

スタイル変更は演奏中でも可能です。切り替えるスタイルを選んでスタイルボタンを押してください。

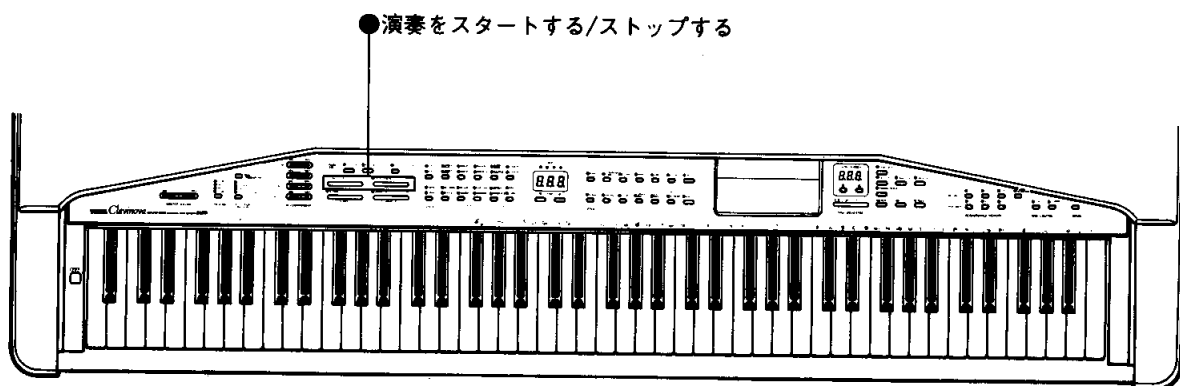
#### 【こんなこともできる！】

- ・右手の演奏音の音色を変更したり、スプリットポイントを変更することが可能です。
- ・レフトペダルファンクションの設定をソロスタイルプレイにすると、レフトペダルを踏んでいる間のみ、高音部の演奏音に装飾音が付きます。
- ・リズム、コード1、コード2、ベース、全体の音量を、それぞれのボリュームで調節できます。
- ・ハーモニーのタイプは、指定したスタイルによって自動的に決まりますが、ハーモニーのタイプを他のスタイルのものに変更することもできます。変更する場合は、ソロスタイルボタンを押しながら、希望するスタイルのボタンを押します。(ただし、通常のスタイル切り替えを行ったり、パワースイッチをオフにすると、変更内容は消えます。)

#### 【注意！】

- ・音色はスタイルごとに自動的に決まります。このため、音色変更はスタイル変更後に行わないと、スタイル変更時に変わってしまいます。
- ・ソステヌートをかけることはできません。

## ●演奏をスタートする/ストップする



### 演奏のスタート方法

#### リズムと伴奏を同時にスタートさせる場合

低音部の鍵盤を押した時点で、自動伴奏がスタートします。

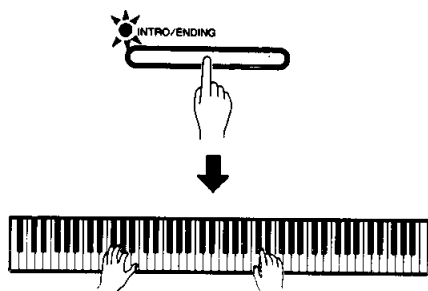
低音部の鍵盤から指を離しても、そのコードの伴奏が続きます。つまり低音側の鍵盤は、コードを変える時だけ押せばそのまま持続します。

#### リズムを先にスタートさせる場合

スタート/ストップボタンを押す。

#### イントロスタートさせる場合

- ①イントロ/エンディングボタンを押し、
- ②スタート/ストップボタンまたは低音部の鍵盤を押す。



### 演奏のストップ方法

#### すぐにストップさせる場合

スタート/ストップボタンを押す。

#### エンディングパターンでストップさせる場合

イントロ/エンディングボタンを押す。

- ・この状態でストップさせた場合はシンクロスタートの待機状態になります。
- ・完全に終了させる場合はソロスタイルプレイ、シングルフィンガー、フィンガードのボタンを押して、ソロスタイルプレイおよびピアノABCの状態を解除してください。

### 【アドバイス！】

- ・左手演奏において鍵盤から指を離さないで動かすと、コードが正確に鳴らないことがあります。

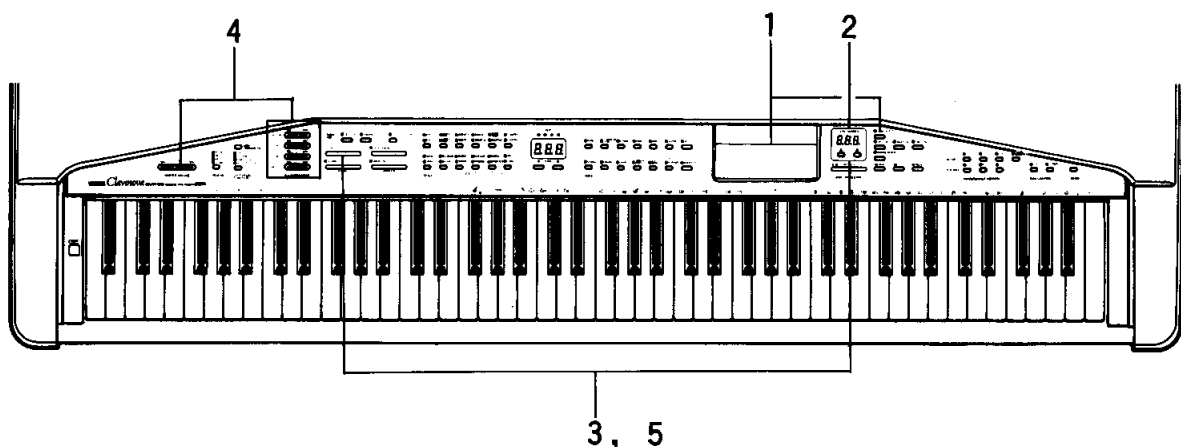
鍵盤から指を一旦離れた上で、次のコードを指定してください

# 3. ディスクオーケストラについて

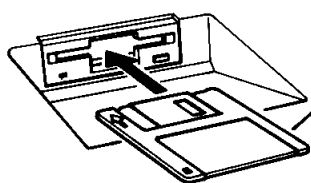
クラビノーバのための音楽ソフト「ディスクオーケストラコレクション」を使えば、オーケストラの伴奏に合わせてピアノ演奏を楽しんだり、ピアノマイナスイオン演奏でオーケストラとの共演を楽しんだり、右手と左手を別々に練習することができます。

## ●自動演奏させる

「ディスクオーケストラコレクション」のディスクを、CVP-55で自動演奏させてみましょう。



1 「ディスクオーケストラコレクション」のフロッピーディスクを、ディスク挿入口に差し込みます。



ディスクはこの向きで挿入

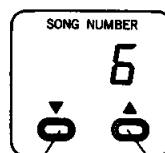
★ディスクを差し込むと、ソングセレクトボタン、レフトオンボタン、ライトオンボタン、オーケストラオンボタンのランプが点灯します。

すでにディスクが差し込まれている場合は、ソングセレクトボタンを押してランプを点灯させます。



2 ソングナンバーボタンで、自動演奏させたい曲の番号を指定します。

ソングナンバー表示器を見ながら曲番号を指定します。



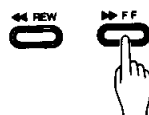
▼ボタンを押すごとに、曲番号が1ずつ小さくなります。 ▲ボタンを押すごとに、曲番号が1ずつ大きくなります。

★ALLを表示させると、全曲の繰り返しになります。

### 【こんなこともできる！】

・右手パート、左手パート、オーケストラパートの音については、それぞれ自由にオフできます。詳しくは次項のディスクオーケストラに合わせて弾くをご覧ください。

・◀戻しボタンを押すと、1小節単位で小節位置が戻ります。  
・停止中または一時停止中に▶送りボタンを押すと、1小節単位で小節位置が進みます。  
また自動演奏中に▶送りボタンを押すと、早送り音を聴きながら連続して小節を進めることができます。





### 3 自動演奏の開始

スタート/ストップボタンまたはディスクオーケストラのスタート/ストップボタンを押して、自動演奏をスタートさせます。カウント音の後に自動演奏が始まる曲もあります。

★ソングナンバー表示器の下側左の点が点灯している時は、ディスク準備中ですので開始の操作をしても演奏は始まりません。



この点が点灯している時はスタートしない。

### 4 音量の調節

各ボリュームで各音量を調節できます。

- ・全体……………マスターボリューム
- ・リズムパート……………リズムボリューム
- ・オーケストラパート(4~10トラック) ..コード1ボリューム
- ・右手、左手パート(1、2トラック)……コード2ボリューム
- ・ベースパート(3トラック) ……ベースボリューム

### 5 自動演奏の終了

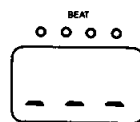
曲の最後まで演奏されて自動的に停止します。途中で停止させる時は、スタート/ストップボタンまたはディスクオーケストラのスタート/ストップボタンを押します。

#### 【注意！】

- ・曲によっては、小節数が楽譜と異なって表示されることがあります。
- ・曲の音量バランスによっては、ボリュームが最小(MIN)までいかないうちに音が消えてしまうパートがあります。

#### 【補足】

- ・収録されている曲によっては、テンポが表示されない場合があります。その場合曲が停止中は、テンポ表示器に次のように表示され、演奏中は曲の進行を示す数字が表示されますが、この数字は小節とは関係ありません。



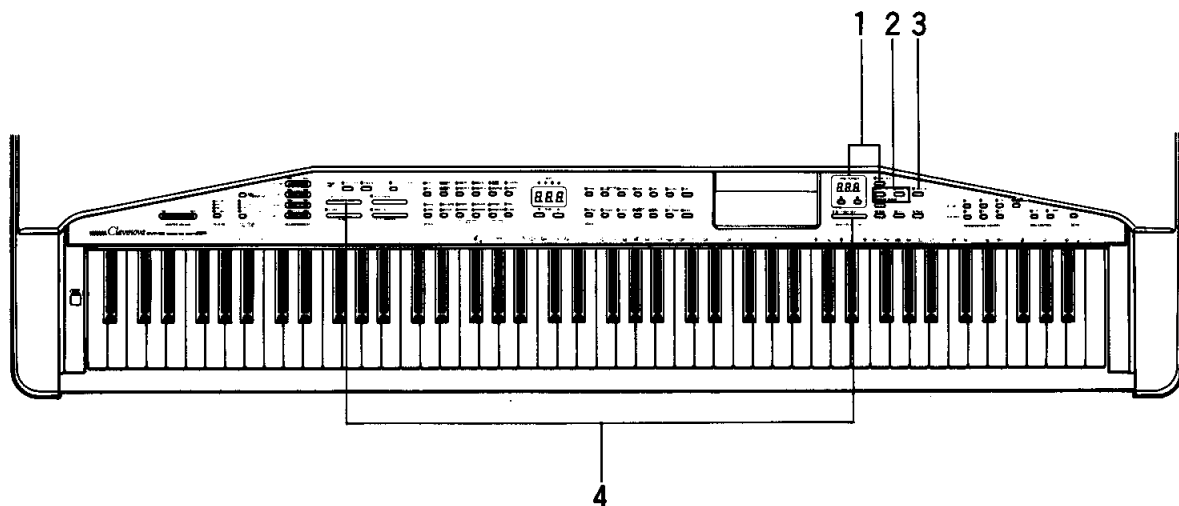
- ・自動演奏中にII一時停止(PAUSE)ボタンを押すと、自動演奏が一時停止します。もう一度押すと、一時停止した所から再スタートします。



- ・レフトペダルファンクションの設定をスタート/ストップにすると、レフトペダルでポーズ/ネクストフレーズ機能の操作を行えるようになります。この機能は、レフトペダルを踏むたびに「演奏一時停止と次のフレーズ番号のところからの演奏開始」を行う機能です。ただし、全曲リピート中、フレーズリピート中はこの機能は使えません。
- ・自動演奏時のテンポを変更できます。

## ●ディスクオーケストラに合わせて練習(マイナスワン機能)

ピアノ演奏の右手パート、左手パートを別々に練習できます。

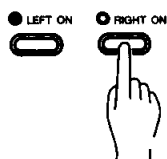


1 ソングセレクトボタンを押した上で(ソングセレクトボタンのランプを点灯させる)、ソングナンバーボタンで練習したい曲の番号を指定します。

2 練習したいパートのオンボタンを押してランプを消灯させます。

次の練習方法があります。

- ・ 右手パートを練習する時：  
ライトオンボタンを押してランプを消す。
- ・ 左手パートを練習する時：  
レフトオンボタンを押してランプを消す。
- ・ 右手・左手両パートを同時に練習する時：  
ライトオンボタン、レフトオンボタンを押して、両方のランプを消す。



3 練習の際、オーケストラパートを鳴らしたくない場合は、オーケストラオンボタンを押してランプを消灯させます。



### 4 練習のスタート

スタート/ストップボタン、またはディスクオーケストラのスタート/ストップボタンを押すと演奏が始まりますが、ランプを消灯させたパートの演奏音は聞こえません。

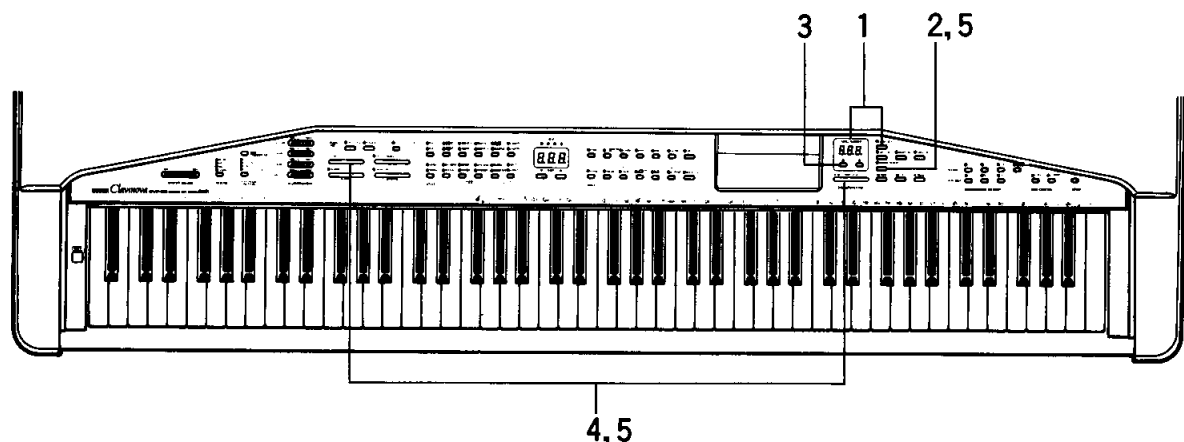
曲に合わせて、オフにしたパートを自分の演奏で練習してみましょう。

【こんなこともできる！】

・ 各パートのボタンは、自動演奏の途中でもオン/オフできます。

## ●苦手なフレーズを繰り返し練習 (フレーズリピート機能)

1曲の中の、あるフレーズだけを繰り返し自動演奏させることができます。繰り返し練習してマスターしましょう。



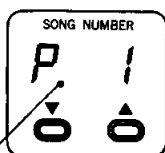
1 ソングセレクトボタンを押した上で、ソングナンバーボタンで練習したい曲の番号を指定します。

2 フレーズリピートボタンを押します。

● PHRASE REPEAT



フレーズリピートボタンを押すと、ランプが点灯し、ソングナンバー表示器はフレーズ番号表示になります。



この点が点灯している時はスタートしません。

3 ソングナンバーボタンで、繰り返し練習したいフレーズの番号を指定します。

### 4 練習の開始

スタート/ストップボタンまたはディスクオーケストラのスタート/ストップボタンを押すと、1小節のカウント音の後に、選んだフレーズより演奏が始まり、次のフレーズまでの間が繰り返し演奏になります。繰り返し練習しましょう。

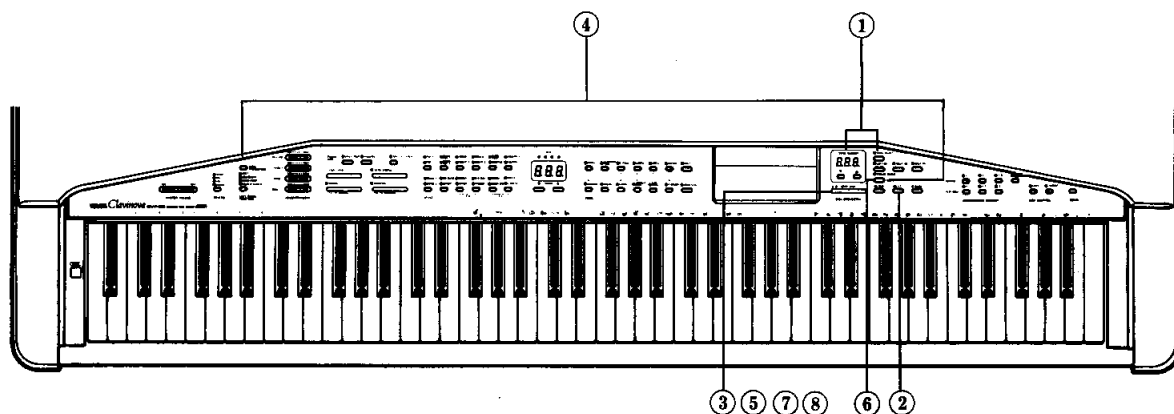
★繰り返しの回からは、カウント音は鳴りません。

### 5 フレーズリピート練習の終了

スタート/ストップボタン、またはディスクオーケストラのスタート/ストップボタンを押して停止させます。完全に終了させる場合は、フレーズリピートボタンを押してランプを消灯させてください。

## ●リピート練習する(A-Bリピート機能)

フレーズ番号にとらわれずに、曲中の2点間(A点とB点)を指定して、リピート練習が可能です。繰り返しの開始ポイントがA点、終了ポイントがB点です。



### 1 2点間指定の準備

- ①レッスンしたい曲を指定します。
- ②▶送りボタンを押してA点の少し前まで進めます。
- ③曲をスタートさせます。

### 2 A点とB点を指定します。

- ④自動演奏音を聴き、A点とB点が来たらMIDI/トランスポートボタンを押しながら、それぞれフレーズリピートボタンを押します。
- ⑤曲を停止させます。

### 3 リピート練習の開始

- ⑥フレーズリピートボタンを押します(フレーズリピートボタンのランプが点灯し、ソングナンバー表示器にA-bが表示されます)。
- ⑦演奏をスタートさせます。繰り返し練習しましょう。

### 4 A-Bリピート練習の終了

- ⑧演奏を停止させます。
- ⑨完全に終了させる場合は、フレーズリピートボタンを押してランプを消灯させてください。

## ●録音用ディスクへのコピー (マイレパートリーづくり)

ディスクオーケストラコレクションの曲を、録音用のフロッピーディスクにコピーできます。右手(1トラック)、左手(2トラック)パートは自動的に除いてコピーされますので、後でオーケストラの伴奏をバックに自分の演奏を録音できます。

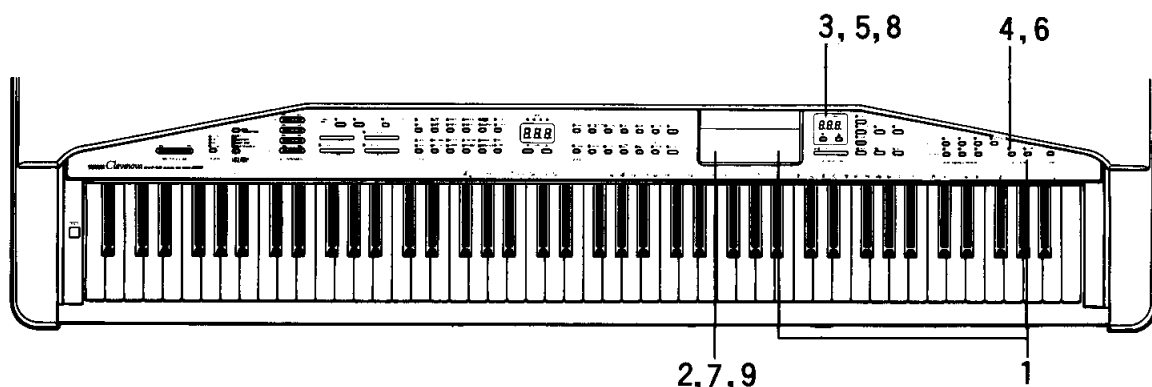
★一般のディスクに1曲のみコピーできます。

#### 【注意！】

・曲番号を変更すると、A-Bリピート設定は解除されます。

#### 【補足】

- ・再度A-Bリピートさせたい場合は、フレーズリピートボタンを押してA-bを表示させます。ただし、曲番号変更後は、再びA点とB点を指定する必要があります。
- ・A-Bリピート練習の場合は、カウント音は鳴りません。



1 コピー先の録音用ディスクをフォーマットします。  
(38ページ参照)

2 コピー元の曲が入っているディスクオーケストラ  
コレクションのディスクを、ディスク挿入口に差  
し込みます。

3 ソングナンバーボタンでコピーしたい曲の番号を  
指定します。

4 コピーボタンを押します。  
すると、ランプが点滅を始め、ソングナンバー表  
示器はc 0の表示になります。

5 ソングナンバーボタンで、コピー先の曲番号を指  
定します。  
c1~c60の範囲の曲番号を指定してください。  
★この時点であれば、スタート/ストップボタン  
を押すことによりコピーを解除できます。

6 もう一度コピーボタンを押します。  
読み込みが終ると、ソングナンバー表示器がd2  
(録音用ディスクの挿入要求)の表示になります。

7 ディスクオーケストラコレクションのディスクを  
取り出し、コピー先のフロッピーディスクを差し  
込みます。

すると、ソングナンバー表示器に、Y/nの確認表  
示が出ます。

★次の操作8を行うと、コピー先のディスクにすで  
に録音されている曲は全て消去された上でコピ  
ーされます。すでに使用中のディスクにコピー  
する場合は、その中身に充分注意してください。

8 コピー先のディスクを再確認してOKであれば、  
▼ボタンを押します。  
コピーが開始されます。

9 d1が表示されたら  
本ページ下欄の[補足]をご覧ください。

10 コピーが終了すると……  
ランプが消灯し、ソングナンバー表示器は通常の  
曲番号表示に戻ります。

11 再生または録音  
コピーした曲を自動演奏させながら、自分で右  
手パートおよび左手パートを弾いて1および2ト  
ラックに録音できます(ピアノABCやソロスタ  
イルプレイ機能を使った場合とは違ったアレン  
ジによる、自分だけのオリジナルディスクを作  
ることができます)。

#### 【補足】

・コピー元のソングの演奏時間が長かったり、1曲の中でたくさんの機能を使っている場合は、一度にコピーできないことがあります。その場合、操作8の後d1(ディスクオーケストラコレクションのディスク挿入要求)の表示になります。

この時は、次の操作をしてください。

d1が表示されたら……ディスクオーケストラコレクションのディスクをディスク挿入口に差し込んで、d2または曲番号表示になるまで待つ。

d2が表示されたら……コピー先のディスクをディスク挿入口に差し込んで、d1または曲番号表示になるまで待つ。  
曲番号表示に戻ったら……コピーは終了です。

#### 【注意！】

操作11の方法で作成したオリジナルディスク内の演奏は、同一ディスク内でのコピーは可能ですが、他のディスクへのコピーはできません。